

Microsoft System Center
Configuration Manager 用 Dell
Lifecycle Controller
Integration バージョン 1.3
ユーザースガイド



メモおよび注意



メモ：コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。



注意：手順に従わない場合は、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性があることを示しています。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。

© 2011 すべての著作権は **Dell Inc.** にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell™、DELL ロゴは Dell Inc. の商標です。Microsoft®、Windows®、Windows Server®、MS-DOS® および Windows Vista® は米国およびその他の国々における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Red Hat Enterprise Linux® および Enterprise Linux® は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すためにその他の商標および社名が使用されていることがあります。それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

2011 年 11 月

目次

1	はじめに.....	9
	新機能	9
	既存の機能と機能性	11
	対応 OS	12
	サポートされる Microsoft .NET のバージョン	12
	サポートされるターゲットシステム	12
2	使用事例のシナリオ.....	15
	共通の前提条件	15
	システムの BIOS 設定プロファイルの編集およびエクスポート	15
	必要条件	15
	ワークフロー	15
	システムの RAID プロファイルの作成、編集および保存	16
	前提条件	16
	ワークフロー	16
	ファームウェアインベントリの比較とアップデート	17
	前提条件	17
	ワークフロー	17
	コレクションへのオペレーティングシステムの導入	18
	前提条件	18
	ワークフロー	18

Integrated Dell Remote Access Controller vFlash	
カードまたはネットワーク共有へのサーバー プロファイルのエクスポート	19
前提条件	19
作業を開始する前に	19
ワークフロー	20
Integrated Dell Remote Access Controller vFlash	
カードまたはネットワーク共有からのサーバー プロファイルのインポート	20
前提条件	21
作業を開始する前に	21
ワークフロー	22
Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート	22
前提条件	22
作業を開始する前に	22
ワークフロー	23
NIC/CNA プロファイルでの作業	23
前提条件	23
ワークフロー	23

3 Dell Lifecycle Controller	
Integration の使用	25
ターゲットシステムの設定	26
自動検出とハンドシェイク	26
タスクシーケンスへのドライバの適用	27
Lifecycle Controller からのドライバの適用	27
ConfigMgr リポジトリからのドライバの 適用	29
予備ステップの条件の表示	30
タスクシーケンスメディア（ブータブル ISO）の 作成	30
System Viewer ユーティリティ	31

設定ユーティリティ	33
Integrated Dell Remote Access Controller	
コンソールの起動	33
Task Viewer からの Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動.	34
Task Viewer	35
Dell Lifecycle Controller Integration を使って実行できる その他のタスク	36
セキュリティの設定	36
Import.exe を使用したターゲットシステム情報の アップデート	38
Array Builder の使用	38
 4 設定ユーティリティの使い方	 47
Lifecycle Controller 起動メディアの作成	48
Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト 共有ロケーションの設定	48
ハードウェアの設定とオペレーティングシステムの 導入	49
ハードウェア設定および OS の導入 ワークフロー	50
OS 導入中の iDRAC6 ファームウェアの アップデート	52
オペレーティングシステム導入中の ハードウェアの構成.	53
RAID の設定	53
コレクションへの NIC または CNA プロファイルの適用.	53
コレクションへの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの適用	55
コレクション内のシステムのファームインベントリの 比較およびアップデート	57
ハードウェアインベントリの表示	59
Lifecycle Controller との通信の検証	59

	Lifecycle Controller の資格情報の変更	60
	ConfigMgr データベースの Lifecycle Controller の 資格情報の変更	61
	コレクションの Lifecycle Controller ログの表示と エクスポート	62
	コレクションのプラットフォーム復元	63
	コレクション内のシステムプロファイルの インポート	63
	コレクション内のシステムプロファイルの インポート	63
	コレクションの部品交換プロパティの設定	64
	NIC/CNA プロファイルのコレクション内 システムとの比較	65
5	サーバーのインポートユーティリティの 使用	67
	Dell サーバーのインポート	67
	システム変数のインポート	69
6	System Viewer ユーティリティの 使用	71
	ハードウェア設定の表示と編集	72
	新規プロファイルの作成	72
	既存のプロファイルの編集	72
	新しい属性の追加	73
	既存の BIOS 属性の編集	74
	BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの 順序の変更	74
	RAID の表示と設定	74
	システムの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの設定	75

Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの作成.	75
Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの編集.	76
システムの NIC および CNA の設定	77
NIC/CNA プロファイルの作成	78
コレクションのスキャン	79
NIC/CNA プロファイルの編集	82
ファームウェアインベントリの比較と アップデート	83
ハードウェア設定プロファイルの比較	84
Lifecycle Controller ログの表示	85
最新のメッセージレジストリのダウンロード およびアップデート.	88
システムのハードウェアインベントリの表示	88
システムのプラットフォームの復元.	89
システムファイルのエクスポートまたは インポートの前提条件	89
システムプロファイルのエクスポート.	89
システムプロファイルのインポート.	91
システムの部品交換プロパティの設定.	93
7 トラブルシューティング	97
IIS 用 Dell プロビジョニングウェブサービスの 設定	97
Dell 自動検出ネットワーク設定仕様.	99
アップグレードまたは修正の問題	99
Lifecycle Controller ログのエクスポートおよび 表示のトラブルシューティング	100
問題と対応処置.	101
8 関連文書およびリソース	107
テクニカルサポートを受けるには	107

はじめに

Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって、管理者は Integrated Dell Remote Access Controller の一部として利用可能な Dell Lifecycle Controller の Remote Enablement 機能を活用することができます。

高レベルの Remote Enablement 機能は次によって構成されています。

- 自動検出
- ハードウェア設定
- ファームウェアの比較およびアップデート
- 個別の Dell システム、または Dell システムのコレクションためのオペレーティングシステムのリモート導入

新機能

本リリースの ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration は次の機能をサポートします。

表 1-1 新機能と機能性

新機能	機能性
プラットフォームの復元	<p>次を含む、システムまたはコレクション用のプラットフォームの復元に関するタスクを実行することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システムプロファイルを外部ロケーションにエクスポートする。 • 外部ロケーションから保存したシステムプロファイルをインポートする。 • システムまたはコレクションの部品交換プロパティを設定する。 <p>詳細については、システムのプラットフォームの復元およびコレクションのプラットフォーム復元を参照してください。</p>
Lifecycle Controller ログの表示およびエクスポート	<p>システムまたはコレクションの Lifecycle Controller ログを読み取り可能な形式で表示し、ログを .CSV ファイルに保存またはエクスポートすることができます。詳細については、Lifecycle Controller ログの表示およびコレクションの Lifecycle Controller ログの表示とエクスポートを参照してください。</p>

表 1-1 新機能と機能性 (続き)

新機能	機能性
ネットワークインタフェースカード (NIC) および統合型ネットワークアダプタ (CNA) の設定	<p>システムにおける特定の NIC または CNA に異なる属性を設定し、それらをプロファイルに保存することができます。</p> <p>保存されたプロファイルは、後ほどオペレーティングシステムを導入する際にワークフローの一環としてコレクションに適用できます。</p> <p>また、適用された NIC/CNA プロファイルをシステムの NIC/CNA 設定と比較して、比較レポートを生成することもできます。</p> <p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システムの NIC および CNA の設定 • コレクションへの NIC または CNA プロファイルの適用 • NIC/CNA プロファイルのコレクション内システムとの比較
システムまたはコレクションのための統合 Dell Remote Access Controller プロファイルの設定	<p>システムのために統合 Dell Remote Access Controller 設定を定義して、システムのハードウェア設定プロファイルの一部として保存することができます。</p> <p>保存されたプロファイルは、後ほどオペレーティングシステムを導入する際にワークフローの一環としてコレクションに適用できます。</p> <p>詳細については、システムの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの設定を参照してください。</p>
ファームウェアのアップデートのための Dell FTP への接続	<p>システムまたはコレクションのファームウェアアップデートをダウンロードするため、FTP サイトに接続できるようになりました。コレクションのためにファームウェアアップデートを予定することもできます。</p> <p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ファームウェアインベントリの比較とアップデート • コレクション内のシステムのファームウェアインベントリの比較およびアップデート

表 1-1 新機能と機能性 (続き)

新機能	機能性
Dell サーバーとシステム変数のインポート	ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって自動検出されない Dell サーバーをインポートできます。インポートされたサーバーは、すべての Dell Lifecycle Controller サーバー下に表示され、Dell Lifecycle Controller Integration ユーティリティを使用してサーバー上でさまざまなアクティビティを実行できます。 また、.CSV ファイルにあるシステム変数を ConfigMgr コンソールのコレクションにあるシステムにインポートすることもできます。 詳細については、 サーバーのインポートユーティリティの使用 を参照してください。
アクティブディレクトリの資格情報を認証に使用した Integrated Dell Remote Access Controller へのアクセス	アクティブディレクトリ資格情報を入力して Integrated Dell Remote Access Controller の認証を受けることができます。
ファームウェアアップデートのスケジュール	ファームウェアアップデートをスケジュールすることができます。詳細については、 ファームウェアインベントリの比較とアップデート を参照してください。
認証局 (CA) およびコンネーム (CN) チェックの設定	Dell Lifecycle Controller Integration のターゲットとの通信のために CA と CN チェックを設定できます。

既存の機能と機能性

表 1-2 機能と機能性

機能	機能性
自動検出とハンドシェイク	この機能は、ヘアメタルシステム上の Integrated Dell Remote Access Controller がプロビジョニングサービスを検索し、サイトサーバーと通信を確立することを可能にします。詳細については、 自動検出とハンドシェイク を参照してください。
System Viewer ユーティリティ	この機能は、Dell Lifecycle Controller Integration の Remote Enablement 機能を使用して個々のシステムを設定することを可能にします。詳細については、 System Viewer ユーティリティの使用 を参照してください。

表 1-2 機能と機能性（続き）

機能	機能性
Config ユーティリティ	この機能は、Dell Lifecycle Controller Integration の Remote Enablement 機能を使用してシステムのコレクションを設定することを可能にします。詳細については、 設定ユーティリティの使い方 を参照してください。
Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動	この機能は、Task Viewer、および Dell 11g システムを含むコレクションのシステムから Integrated Dell Remote Access Controller コンソールを起動することを可能にします。詳細については、 Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動 を参照してください。
Task Viewer	この機能は、ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって処理されるタスクのステータスの追跡を可能にします。詳細については、 Task Viewer を参照してください。

対応 OS

対応オペレーティングシステムの詳細については、『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration 1.3 インストールガイド』を参照してください。

サポートされる Microsoft .NET のバージョン

対応 Microsoft .NET バージョンの詳細については、『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration 1.3 インストールガイド』を参照してください。

サポートされるターゲットシステム

ターゲットシステムに導入できる対応ターゲットシステムおよびオペレーティングシステム（Windows のみ）のリストについては、support.dell.com/manuals にある『Unified Server Configurator/Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled- 対応 Dell システムおよびオペレーティングシステムマトリクス』を参照してください。マニュアルのページで、**Software**（ソフトウェア）→ **System Management**（システム管理）→ **Dell OpenManage Releases**（Dell OpenManage リリース）とクリックします。該当する OpenManage リリースバージョンを選択し、適切なリンクをクリックします。**Dell System Software Support Matrix**（Dell システムソフトウェア対応マトリクス）→ **Dell System Software Support Matrix**（Dell システムソフトウェア対応マトリクス）→ **View**（表示）→ **Supported**

Dell Systems and Operating Systems（対応 Dell システムとオペレーティングシステム）をクリックします。対応マトリクスで、**Unified Server Configurator – Lifecycle Controller Enabled** 対応のターゲットシステムとオペレーティングシステムを表示します。

使用事例のシナリオ

本項では、Microsoft System Center Configuration Manager (ConfigMgr) 用 Dell Lifecycle Controller Integration で実行できる代表的な使用事例とタスクを説明します。

共通の前提条件

ユーザーシナリオに取り掛かる前に、次の前提条件を完了しておくことをお勧めします。

- システムが検出されており、**Computer Management** (コンピュータ管理) → **Collections** (コレクション) 下の **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) コレクションに表示されていることを確認します。詳細については、[自動検出とハンドシェイク](#)を参照してください。
- BIOS プロファイルを編集してエクスポートを行うシステムに最新の BIOS バージョンをインストールします。
- システムに Lifecycle Controller の最新バージョンをインストールします。
- システムに Integrated Dell Remote Access Controller ファームウェアの最新バージョンをインストールします。

システムの BIOS 設定プロファイルの編集およびエクスポート

システムの BIOS 設定をプロファイルとして編集およびエクスポートして、ConfigMgr コンソール上の **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) に表示されるシステムのコレクションにオペレーティングシステムを導入する時にそれを適用することができます。

必要条件

詳細については、[共通の前提条件](#)を参照してください。

ワークフロー

- 1 特定システムについて、ConfigMgr コンソール上に **System Viewer** ユーティリティを起動します。詳細については、[設定ユーティリティ](#)を参照してください。

- 2 **System Viewer** ユーティリティ上でハードウェア設定を選択し、システムの BIOS 設定をロードします。詳細については、[ハードウェア設定の表示と編集](#)を参照してください。
- 3 新規のプロファイルを作成、または既存のプロファイルに変更を加えます。詳細については、[新規プロファイルの作成および既存のプロファイルの編集](#)を参照してください。
- 4 プロファイルの属性を追加、編集、またはアップデートします。詳細については、[新しい属性の追加](#)を参照してください。
- 5 (オプション) BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの順序を変更します。詳細については、[BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの順序の変更](#)を参照してください。
- 6 プロファイルを **.XML** ファイルとして、ローカルシステムの任意のフォルダ場所に保存します。

システムの RAID プロファイルの作成、編集および保存

システムの RAID プロファイルを作成、編集、および保存し、ConfigMgr コンソール上の **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) に表示されるシステムのコレクションにオペレーティングシステムを導入する時にそれを適用することができます。

前提条件

- [共通の前提条件](#)
- ローカルキー管理対応の RAID コントローラおよびファームウェア

ワークフロー

- 1 特定システムについて、ConfigMgr コンソール上に **System Viewer** ユーティリティを起動します。詳細については、[System Viewer ユーティリティ](#)を参照してください。
- 2 **System Viewer** ユーティリティ上で RAID 設定を選択し、システムの RAID 設定をロードします。詳細については、[RAID の表示と設定](#)を参照してください。
- 3 **Array Builder** を起動して RAID プロファイルを作成します。詳細については、[Array Builder を使用した RAID プロファイルの作成](#)を参照してください。
- 4 (オプション) 既存プロファイルをインポートおよび編集します。詳細については、[プロファイルのインポート](#)を参照してください。

- 5 新規作成された RIAD プロファイルを .XML ファイルとして、ローカルシステムの任意のフォルダー場所に保存します。

ファームウェアインベントリの比較とアップデート

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration を使用して、単体システムまたはシステムのコレクションのファームウェアインベントリの比較とアップデートを行うことができます。ファームウェアインベントリを、特定のインベントリプロファイル、Dell FTP サイト、またはレポジトリマネージャによって作成された PDK カタログと比較することができます。

前提条件

- [共通の前提条件](#)
- プラグイン導入キット (PDK) カタログがある Common Internet File System (CIFS) 共有、または Dell FTP サイト (ftp.dell.com) にアクセスできることを確認します。
- 既存プロファイルと比較するには、ハードウェアインベントリプロファイルを作成します。詳細については、[新規プロファイルの作成](#)を参照してください。

ワークフロー

- 1 単体ターゲットシステムのファームウェアインベントリと比較、アップデートするには、**System Viewer** ユーティリティを起動します。システムのコレクションのファームウェアインベントリと比較、アップデートするには、Config ユーティリティを起動します。詳細については、[System Viewer ユーティリティ](#)および[設定ユーティリティ](#)を参照してください。
- 2 **System Viewer** ユーティリティまたは Config ユーティリティから **Firmware Inventory, Compare, and Update** (ファームウェアインベントリ、比較およびアップデート) を選択します。
- 3 単体システムについては、[ファームウェアインベントリの比較とアップデート](#)を参照してください。
- 4 コレクションについては[コレクション内のシステムのファームウェアインベントリの比較およびアップデート](#)を参照してください。

コレクションへのオペレーティングシステムの導入

ConfigMgr コンソールの **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) に表示されるシステムのコレクションにオペレーティングシステムを導入するため、ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration を使用できます。

前提条件

- [共通の前提条件](#)
- 追加プラグインとして利用可能な Dell Server Deployment Pack バージョン 1.2 をインストールしてから、Lifecycle Controller からドライバを適用するために Dell サーバー導入パックを使用してタスクシーケンスを作成します。詳細については、[Lifecycle Controller からのドライバの適用](#)を参照してください。
- ConfigMgr レポジトリからのドライバを適用します。詳細は、support.dell.com/manuals にあるサーバー導入パックマニュアルを参照してください。
- タスクシーケンス ISO で起動するため、Integrated Dell Remote Access Controller がインストールされたシステムのコレクション用のタスクシーケンス起動メディアを作成します。詳細については、[タスクシーケンスメディア \(ブータブル ISO\) の作成](#)を参照してください。

ワークフロー

- 1 ConfigMgr コンソールで、**Computer Management** (コンピュータの管理) → **Collections** (コレクション) と選択し、**Managed Dell Lifecycle Controllers (OS Unknown)** (管理対象 Dell Lifecycle Controller (OS 不明)) を右クリックして **Dell Lifecycle Controller Launch Config Utility** (Config ユーティリティの起動) を選択します。
- 2 **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility** (Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ) で、**Deploy Operating System** (オペレーティングシステムの導入) を選択します。
- 3 Dell リポジトリからファームウェアをアップデートします。詳細については、[OS 導入中の iDRAC6 ファームウェアのアップデート](#)を参照してください。
- 4 BIOS/NIC プロファイルを設定または編集します。詳細については、[オペレーティングシステム導入中のハードウェアの構成](#)を参照してください。
- 5 RAID プロファイルを設定または編集します。詳細については、[RAID の設定](#)を参照してください。

- 6 コレクションに NIC/CNA プロファイルを適用します。詳細については、[コレクションへの NIC または CNA プロファイルの適用](#)を参照してください。
- 7 コレクションに Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを適用します。詳細については、[コレクションへの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの適用](#)を参照してください。
- 8 オペレーティングシステムを導入し、好みのメディアで起動します。詳細に関しては、[手順 10](#) を参照してください。

Integrated Dell Remote Access Controller vFlash カードまたはネットワーク共有へのサーバープロファイルのエクスポート

サーバープロファイルを Integrated Dell Remote Access Controller vFlash メディア、外部ソースまたはネットワーク共有へエクスポートすることにより、サーバーファイルを単体システムまたはシステムのコレクションのイメージファイルとしてバックアップすることができます。

前提条件

- [共通の前提条件](#)
- 7 桁の有効サービスタグ付きターゲットシステムである
- Integrated Dell Remote Access Controller vFlash カード：
 - ライセンスとして取り付け済み、有効化済み、初期化済みである
 - 少なくとも 384 MB の空きスペースが利用可能である
- ネットワーク共有：
 - ネットワーク共有を持つシステムとの通信を行うための、Integrated Dell Remote Access Controller に関するパーミッションとファイアウォール設定が行われている
 - 少なくとも 384 MB の空きスペースが利用可能である
- ターゲットシステムの Integrated Dell Remote Access Controller に管理者権限が設定されている

作業を開始する前に

単体システムまたはコレクションにシステムプロファイルのエクスポートを開始する前に、次を行います。

- ファームウェアアップデート、オペレーティングシステムの導入、およびファームウェアの設定などの操作を実行しないようにしてください。

- Lifecycle controller を使用したオペレーティングシステムの導入後は、18 時間にわたって OEM ドライブ (OEMDRV) が開いたままになります。これは Lifecycle Controller にオペレーティングシステムインストールのステータスがないためです。オペレーティングシステムの導入後に、アップデート、設定、復元などの操作を実行する必要がある場合は、OEMDRV パーティションを削除してください。パーティションを削除するには、Integrated Dell Remote Access Controller をリセットするか、システムサービスをキャンセルします。

Integrated Dell Remote Access Controller のリセットまたはシステムサービスのキャンセルに関する詳細は、support.dell.com/manuals にある『Dell Lifecycle Controller Remote Services ユーザーズガイド』を参照してください。

- バックアップをスケジュールした場合、ターゲットシステムで BIOS アップデートや RAID 設定などの他のリモートサービスジョブをスケジュールしないでください。
- エクスポートの実行中、およびエクスポート後に、バックアップイメージファイルが改ざんされることがないようにしてください。

ワークフロー

- 1 単体のターゲットシステムのシステムプロファイルをエクスポートするには、**System Viewer** ユーティリティを起動します。システムのコレクションのシステムプロファイルをエクスポートするには、**Config** ユーティリティを起動します。詳細については、[System Viewer ユーティリティ](#)および[設定ユーティリティ](#)を参照してください。
- 2 **System Viewer** ユーティリティまたは **Config** ユーティリティで **Platform Restore** (プラットフォームの復元) を選択します。
- 3 単体システムについては、[システムプロファイルのエクスポート](#)を参照してください。
- 4 コレクションについては、[コレクション内のシステムプロファイルのインポート](#)を参照してください。

Integrated Dell Remote Access Controller vFlash カードまたはネットワーク共有からのサーバープロファイルのインポート

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration を使用して、Integrated Dell Remote Access Controller vFlash メディアまたはネットワーク共有から単体システムまたはシステムのコレクションのシステムプロファイルのバックアップを復元できます。

前提条件

- [共通の前提条件](#)
- サーバーのサービスタグがバックアップ時と同じか空のいずれかである
- **Integrated Dell Remote Access Controller vFlash カード**：
 - ライセンスとして取り付け済み、有効化済みで、SRVCNF パーティションが設定されている
 - 少なくとも **384 MB** の空きスペースが利用可能である
- **Integrated Dell Remote Access Controller vFlash メディア**からインポートする場合は、カードが取り付け済みで、SRVCNF パーティションにバックアップイメージがあることを確認してください。このイメージは、インポート先と同じプラットフォームのものです。
- ネットワーク共有からインポートを行う場合は、バックアップイメージファイルが保存されているネットワーク共有にアクセス可能であることを確認してください。
- インポートを実行する前にマザーボードを取り替えた場合、マザーボードに最新の **Integrated Dell Remote Access Controller** と BIOS がインストールされていることを確認してください。

作業を開始する前に

システムまたはコレクションにバックアップファイルのインポートを開始する前に、次を確認してください。

- バックアップイメージファイルにユーザーデータが含まれていない。バックアップイメージファイルで既存の設定を上書きする場合、ユーザーデータが復元されていない。
- インポート実行中は、ファームウェアアップデート、オペレーティングシステムの導入、およびファームウェアの設定などの操作を実行しないようにしてください。
- **Lifecycle controller** を使用したオペレーティングシステムの導入後は、**18** 時間にわたって **OEMDRV** が開いたままになります。オペレーティングシステムの導入後に、アップデート、設定、インポートなどの操作を実行する必要がある場合は、**OEMDRV** パーティションを削除してください。パーティションを削除するには、**Integrated Dell Remote Access Controller** をリセットするか、システムサービスをキャンセルします。

ワークフロー

- 1 単体のターゲットシステムのシステムプロファイルをインポートするには、**System Viewer** ユーティリティを起動します。システムのコレクションのシステムプロファイルをインポートするには、**Config** ユーティリティを起動します。詳細については、[System Viewer ユーティリティ](#) および [設定ユーティリティ](#) を参照してください。
- 2 **System Viewer** ユーティリティまたは **Config** ユーティリティで **Platform Restore**（プラットフォームの復元）を選択します。
- 3 単体システムについては、[システムプロファイルのインポート](#) を参照してください。
- 4 コレクションについては、[コレクション内のシステムプロファイルのインポート](#) を参照してください。

Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート

単体システムまたはコレクションについて Lifecycle Controller ログを表示したり、ネットワーク共有フォルダに .CSV 形式でエクスポートすることができます。

前提条件

- [共通の前提条件](#)
- ネットワーク共有：
 - Integrated Dell Remote Access Controller がネットワーク共有にアクセスできる
 - Integrated Dell Remote Access Controller に、ネットワーク共有への情報の書き込みに必要なパーミッションがある
 - 少なくとも 384 MB の空きスペースが利用可能である
- 同時に表示したいログファイル数を **DLCSystemview.exe.config** または **DLCConfigUtility.exe.config** ファイルで設定します。詳細については、[Lifecycle Controller ログの表示](#) を参照してください。

作業を開始する前に

単体システムまたはコレクションの Lifecycle Controller ログを表示またはエクスポートする前に次を確認してください。

- ターゲットシステム上の Lifecycle Controller がファームウェアアップデート、オペレーティングシステムの導入、ファームウェアの設定、システムプロファイルのエクスポートまたはインポートなど、その他のタスクを実行中の場合は、タスクが完了するのを待ってからログを取得してください。
- ネットワーク共有のパーミッションをチェックして、ターゲットシステムの Lifecycle Controller が共有にアクセスできることを確認してください。

ワークフロー

- 1 単体ターゲットシステムの Lifecycle Controller ログを表示するには、**System Viewer** ユーティリティを起動します。システムのコレクションの Lifecycle Controller ログを表示するには、**Config** ユーティリティを起動します。詳細については、[System Viewer ユーティリティ](#)および[設定ユーティリティ](#)を参照してください。
- 2 **System Viewer** ユーティリティまたは Config Utility で **View Lifecycle Controller Logs** (Lifecycle Controller ログの表示) を選択します。
- 3 単体システムについては、[Lifecycle Controller ログの表示](#)を参照してください。
- 4 コレクションについては、[コレクションの Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート](#)を参照してください。

NIC/CNA プロファイルでの作業

システム内蔵の特定のネットワークインタフェースカード (NIC) または統合ネットワークアダプタ (CNA) の各種属性を設定し、プロファイルに保存することができます。NIC または CNA プロファイルの作成および編集は、**System Viewer** ユーティリティを使って行うことが可能です。

前提条件

詳細については、[共通の前提条件](#)を参照してください。

ワークフロー

- 1 特定システムについて、ConfigMgr コンソール上に **System Viewer** ユーティリティを起動します。詳細については、[System Viewer ユーティリティ](#)を参照してください。
- 2 **Network Adapter Configuration** (ネットワークアダプタの設定) を選択します。
- 3 次のオプションのいずれかを選択します。
 - プロファイルの作成 — 新規の NIC または CNA プロファイルを作成します。詳細については、[NIC/CNA プロファイルの作成](#)を参照してください。
 - 既存プロファイルの編集 — 既存の NIC または CNA プロファイルを編集します。詳細については、[NIC/CNA プロファイルの編集](#)を参照してください。

- アダプタ識別のためのコレクションのスキャンー コレクションをスキャンし、コレクションにある設定済みアダプタを一覧表示します。詳細については、[ファームウェアインベントリの比較とアップデート](#)を参照してください。
- 4 プロファイルにアダプタを追加、またはプロファイルからアダプタを削除します。詳細については、[NIC/CNA プロファイルの作成の手順 4](#) を参照してください。
- 5 グリッド上でアダプタを選択し、設定します。詳細については、[アダプタの設定](#)を参照してください。
- 6 各パーティションに選択したパーソナリティに対して NIC および iSCSI パラメータを設定します。詳細については、[NIC と iSCSI パラメータの設定](#)を参照してください。
- 7 NIC または CNA プロファイルを保存します。

Dell Lifecycle Controller Integration の使用

本章では、Microsoft System Center Configuration Manager (ConfigMgr) に Dell Lifecycle Controller Integration をインストールした後に行うことができる、様々な操作について説明します。

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration の使用を開始する前に、ターゲットシステムが自動検出され、ConfigMgr コンソールの **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) コレクションに表示されることを確認してください。

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration では、**All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) コレクションに含まれるすべての Dell システムで次の操作を行うことができます。

- ターゲットシステムを設定します。詳細については、[ターゲットシステムの設定](#)を参照してください。
- タスクシーケンスにドライバを適用する。詳細については、[タスクシーケンスへのドライバの適用](#)を参照してください。



メモ: オペレーティングシステムの導入中に Lifecycle Controller からドライバを適用する場合は、**Apply Drivers from Lifecycle Controller** (Lifecycle Controller からドライバを適用する) のチェックボックスを選択します。

- タスクシーケンスのメディアを作成する。詳細については、[タスクシーケンスメディア \(ブータブル ISO\) の作成](#)を参照してください。
- コレクション内の特定のシステムに対して **System Viewer** ユーティリティを使用する。
詳細については、[設定ユーティリティ](#)を参照してください。
- Dell システムのコレクションに対して Config ユーティリティを使用する。
詳細については、[設定ユーティリティ](#)を参照してください。
- Integrated Dell Remote Access Controller コンソールを起動する。この操作は、ConfigMgr コンソールの **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) で検出された任意のシステム、または Task Viewer 上で任意のシステムを右クリックして行います。詳細については、[Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動](#)を参照してください。

- Task Viewer を使用して、ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration で処理されるタスクのステータスを見る。詳細については、[Task Viewer](#) を参照してください。

ターゲットシステムの設定

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration は、**yx1x** 以降のシステムのみをサポートしています。コレクション内の各システムについて、BIOS 設定の **Collect System Inventory on Restart (CSIOR)**（再起動時のシステムインベントリの収集 (CSIOR)）を有効にします。



メモ： サーバー名の形式 **yx1x** で、**y** はアルファベット（たとえば M、R、T など）で、**x** は数字を示します。

デフォルトでは **CSIOR** はオフになっています。部品交換機能は、**CSIOR** を設定するオプションを提供します。

複数のシステムで **CSIOR** を有効にするには、『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration バージョン 1.3 ユーザーズガイド』の「システムの部品交換プロパティの設定」を参照してください。

CSIOR を有効化するには、次の手順を実行します。

- 1 システムを再起動します。
- 2 パワーオンセルフテスト (POST) 中に Integrated Dell Remote Access Controller ユーティリティを起動するよう求めるプロンプトが表示されたら、**CTRL + E** を押します。
- 3 選択可能なオプションから **System Services** を選択し、**Enter** を押します。
- 4 **Collect System Inventory on Restart**（起動時にシステムインベントリを収集）を選択し、右向きまたは下向き矢印キーを押して **Enabled**（有効）に設定します。

自動検出とハンドシェイク

自動検出とハンドシェイク機能により、ターゲットシステム上の Integrated Dell Remote Access Controller は、プロビジョニングサービスの場所を確認し、サイトサーバーと通信することが可能になります。Dell プロビジョニングサービスは管理アカウントのプロビジョンを行い、ConfigMgr を新しいシステムでアップデートします。ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller ユーティリティは、このプロビジョニングされたアカウントを使用してターゲットシステムの Integrated Dell Remote Access Controller と通信し、有効化されている機能呼び出しします。

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration は、Integrated Dell Remote Access Controller システムを検出すると、ConfigMgr コンソールの **Computer Management**（コンピュータの管理）→ **Collections**（コレクション）で **All Dell Lifecycle Controller Servers**（すべての Dell Lifecycle Controller サーバー）コレクションを作成します。このコレクション内には、次の 2 つのサブコレクションがあります。

- **Managed Dell Lifecycle Controller (OS Deployed)**（管理対象 Dell Lifecycle Controller（OS 導入済み））— OS を導入したシステムを表示します。
- **Managed Dell Lifecycle Controller (OS Unknown)**（管理対象 Dell Lifecycle Controller（OS 不明））— OS がまだ導入されていないシステムを表示します。



メモ： ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration は、フレックスアドレス指定を使用するモジュラーシステムの自動検出はサポートしていません。

タスクシーケンスへのドライバの適用

導入するオペレーティングシステムに基づいて、Lifecycle Controller または ConfigMgr リポジトリのひとつからドライバを適用します。ConfigMgr リポジトリのドライバはバックアップとして使用します。

Lifecycle Controller からのドライバの適用



メモ： Lifecycle Controller オプションをチェックしてからドライバが公開されるタスクシーケンスを編集すると、手順 6 のエラーが手順ステータスおよび欠落したオブジェクトダイアログボックスに反映されない場合があります。変更を適用する前に、Dell Lifecycle Controller からドライバを適用オプションを設定してください。

Lifecycle Controller からドライバを適用するには、次の手順を実行します。

- 1 既存のタスクシーケンスが存在しない場合は新規のタスクシーケンスを作成、または Lifecycle Controller からドライバが公開されるタスクシーケンスを編集します。

タスクシーケンスを作成するには、support.dell.com/manuals で『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド』を参照してください。

タスクシーケンスを編集するには、次の手順を実行します。

- a タスクシーケンスを右クリックして **Edit**（編集）を選択し、**Task Sequence Editor**（タスクシーケンスエディタ）を開きます。
- b **Add**（追加）→ **Dell Deployment**（Dell 導入）→ **Apply Drivers from Lifecycle Controller**（ドライバを Lifecycle

Controller から適用する) の順にクリックして **Next** (次へ) をクリックします。

タスクシーケンスで参照されているオブジェクトのうち見つからないものをリストするメッセージが表示されます。



メモ：この手順では、ConfigMgr の Apply Driver Package (ドライバパッケージの適用) または Auto Apply Drivers (ドライバの自動適用) 手順のいずれかを追加するための予備手順が必要となります。これらの手順のうちひとつが、タスクシーケンスに条件付きで設定されているようにしてください。予備手順の条件設定の詳細については、[予備ステップの条件の表示](#)を参照してください。

c **OK** をクリックして、このメッセージを閉じます。

- 2 **Apply Operating System Images** (オペレーティングシステムのイメージを適用する) を選択します。
- 3 **Apply operating system from a captured image** (キャプチャしたイメージからオペレーティングシステムを適用する) で、イメージパッケージとイメージを再選択して確認します。
- 4 **Use an unattended or sysprep answer file for a custom installation** (カスタムインストールに無人または sysprep 応答ファイルを使用する) チェックボックスをオフにします。
- 5 **Apply Windows Settings** (Windows 設定の適用) を選択します。ライセンスするモデル、プロダクトキー、システム管理者パスワード、タイムゾーンを入力します。





メモ：デフォルトオプションは管理者のパスワードをランダムに生成しますが、このオプションでは、システムをドメインにマップしない場合にシステムにログインできなくなる可能性があります。別の方法として、**Enable the account and specify the local administrator password** (アカウントを有効にしてローカル管理者のパスワードを指定する) オプションを選択して、システム管理者のパスワードを入力することもできます。

- 6 **Apply Drivers from Dell Lifecycle Controller** (Dell Lifecycle Controller からドライバを適用する) を選択し、ドロップダウンリストからオペレーティングシステムを選択します。
- 7 ConfigMgr コンソールにアクセスするためのシステム管理者の資格情報を使用してユーザー名とパスワードを入力します。
- 8 **Apply Driver Package** (ドライバパッケージの適用) を選択します。**Browse** (参照) をクリックして、ConfigMgr で使用できるドライバパッケージのリストからドライバパッケージを選択します。



メモ：導入されるハードウェアおよびオペレーティングシステムによっては、正しくオペレーティングシステムを導入するために大容量ストレージデバイスを選択する必要がある場合があります。たとえば、Microsoft

Windows 2003 オペレーティングシステムでは、Serial Attached SCSI (SAS) または PowerEdge Expandable RAID Controllers (PERC) 用の互換ドライバが提供されていません。

- 9 **OK** をクリックして **Task Sequence Editor** (タスクシーケンスエディタ) を終了します。
- 10 編集したタスクシーケンスをアドバタイズします。タスクシーケンスのアドバタイズ方法の情報については、support.dell.com/manuals で『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド』を参照してください。
 -  **メモ** : タスクシーケンスのアドバタイズを必須に設定することが必要です。
 -  **メモ** : 同じコレクションに対する複数のアドバタイズメントが必須とされた場合は、実行するアドバタイズの選択は ConfigMgr に任せられます。
- 11 Lifecycle Controller の起動メディアを作成します。詳細については、[Lifecycle Controller 起動メディアの作成](#)を参照してください。

ConfigMgr リポジトリからのドライバの適用

ConfigMgr リポジトリからドライバを適用するには、次の手順を実行します。

- 1 **Reboot to PXE or USB** (PXE または USB から再起動) の各手順の前に、**Set Boot Order** (起動順序の設定) 手順を手動で追加します。**Set Boot Order** (起動順序の設定) 手順は、次回の起動で仮想 CD から起動するようにシステムに指示します。詳細については、[起動順序の設定ステップの追加](#)を参照してください。
- 2 ConfigMgr で、選択したオペレーティングシステムのドライバパッケージを適用します。ドライバパッケージの適用の詳細については、support.dell.com/manuals で『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド』を参照してください。

起動順序の設定ステップの追加

Set Boot Order (起動順序の設定) ステップを手動で追加するには、次の手順を実行します。

- 1 タスクシーケンスを右クリックして、**Add** (追加) → **Dell Deployment** (Dell 導入) → **PowerEdge Server Configuration** (PowerEdge Server の設定) と選択します。
- 2 **Configuration Action Type** (設定操作タイプ) ドロップダウンリストから **Boot Order** (起動順序) を選択します。
- 3 **Action** (操作) ドロップダウンリストから **Set** (設定) を選択します。

- 4 **Configuration file / Command line parameters** (設定ファイル / コマンドラインパラメータ) の新しいドロップダウンリストが表示されます。 **nextboot=virtualcd.slot.1** を選択します。
- 5 **Apply** (適用) をクリックします。ステップの名前が **Set Boot Order** (起動順序の設定) に変わります。
- 6 **Set Boot Order** (起動順序の設定) ステップを選択し、**Reboot to PXE / USB** (PXE / USB から再起動) ステップの直前までドラッグします。
- 7 このプロセスを繰り返して、各 **Reboot to PXE / USB** (PXE / USB から再起動) ステップの前に **Set Boot Order** (起動順序の設定) ステップを作成します。
- 8 **OK** をクリックしてタスクシーケンスを終了します。

予備ステップの条件の表示

タスクシーケンスの作成中、ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって、条件 **DriversNotAppliedFromLC** が自動的に追加されます。この条件は、Lifecycle Controller からのドライバの適用に失敗した場合の予備手順として使用されます。



メモ：この条件は無効化したり、削除しないことをお勧めします。

予備手順の条件を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 ConfigMgr コンソールで、**Computer Management** (コンピュータの管理) → **Operating System Deployment** (オペレーティングシステムの導入) → **Task Sequence** (タスクシーケンス) の順に選択します。
- 2 タスクシーケンスを右クリックして、**Edit** (編集) をクリックします。**Task Sequence Editor** (タスクシーケンスエディタ) が表示されます。
- 3 **Apply Driver Package** (ドライバパッケージの適用) または **Auto Apply Drivers** (ドライバの自動適用) を選択します。
- 4 **Options** (オプション) タブをクリックします。条件 **DriversNotAppliedFromLC** を表示することができます。

タスクシーケンスメディア (ブータブル ISO) の作成

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration は、共通インターネットファイルシステム (CIFS) 共有にあるタスクシーケンス ISO での Integrated Dell Remote Access Controller 搭載システムのコレクションの起動において、Pre-execution Environment (PXE) に依存しません。CIFS 共有にあるこの ISO にアクセスするには、資格情報を入力する必要があります。カスタムタスクシーケンスを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 ConfigMgr コンソールの **Computer Management** (コンピュータの管理) → **Operating System Deployment** (オペレーティングシステムの導入) で、**Task Sequences** (タスクシーケンス) を右クリックし、**Create Task Sequence Media** (タスクシーケンスメディアの作成) を選択します。



メモ：このウィザードを開始する前に、すべての配布ポイントで起動イメージの管理とアップデートを行います。

- 2 **Task Sequence Media Wizard** (タスクシーケンスメディアウィザード) から、**Bootable Media** (ブータブルメディア) を選択し、**Next** (次へ) をクリックします。
- 3 **CD/DVD Set** (CD/DVD セット) を選択し、**Browse** (参照) をクリックして、ISO イメージの保存場所を選択します。**Next** (次へ) をクリックします。
- 4 **Protect Media with a Password** (パスワードでメディアを保護する) チェックボックスをオフにし、**Next** (次へ) をクリックします。
- 5 **Dell PowerEdge Server Deployment Boot Image** を参照して選択します。
- 6 ドロップダウンメニューから配布ポイントを選択し、子サイトからの配布ポイントを表示する チェックボックスをオンにします。
- 7 **Next** (次へ) をクリックします。**Summary** (概要) 画面にタスクシーケンスメディアの情報が表示されます。
- 8 **Next** (次へ) をクリックします。プログレバーが表示されます。
- 9 処理が終了したら、**Close** (閉じる) をクリックしてメディアを取り出します。

System Viewer ユーティリティ

System Viewer ユーティリティによって、ConfigMgr コンソールの **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) で検出された単一ターゲットシステムに対して、ソースシステムあらゆるさまざまな操作を行うことができます。このユーティリティは 1 対 1 の関係で機能し、この操作は 1 ターゲットシステムごとに実行できます。

System Viewer ユーティリティを起動して様々なタスクを行う前に、ターゲットシステムの **Integrated Dell Remote Access Controller** 資格情報を変更する必要があります。

Integrated Dell Remote Access Controller 資格情報を変更して **System Viewer** ユーティリティを起動するには、次の手順を実行します。

- 1 コレクションで Dell **yx1x** システムを右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch System Viewer** (System Viewer の起動) と選択します。
- 2 **iDRAC Authentication Information** (iDRAC 認証情報) 画面に ConfigMgr で既知のデフォルトの資格情報が表示されます。 **Use Credentials Known to ConfigMgr (Default)** (ConfigMgr で既知の資格情報を使用 (デフォルト)) をオフにし、次のいずれかを行います。
 - **Do not modify the existing account** (既存アカウントを変更しない) — このオプションはデフォルトで選択されていますが、資格情報を提供する場合はこのオプションをオフにします。外さない場合は、既存の資格情報が維持されます。 **Integrated Dell Remote Access Controller** に有効な資格情報を入力するようにしてください。アクティブディレクトリで認証された資格情報を入力することができます。
 - **Skip CA check** (CA チェックの省略) — このオプションは、デフォルトで選択されていますが、**ConfigMgr** とターゲットシステムの通信をセキュアにするには、このオプションをオフにします。このオプションをオフにすると、ターゲットシステム上の証明が信頼できる認証局 (CA) で発行されたことにチェックが付きます。ターゲットシステムが信頼できる時のみ、このオプションをオフにしてください。
 - **Skip CN check** (CN チェックの省略) — セキュリティを強化するにはこのオプションをオフにします。システム名が認証され、なりすましを防止します。コモンネーム (CN) は、ターゲットシステムのホスト名と一致する必要はありません。信頼できるターゲットシステムに限り、このオプションをオフにします。
- 3 **OK** をクリックし、**System Viewer** ユーティリティを起動します。

System Viewer ユーティリティの使い方に関する詳細は、[System Viewer ユーティリティの使用](#)を参照してください。

設定ユーティリティ

Config ユーティリティによって、ConfigMgr コンソール上の **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) で検出された Dell システムのコレクション全体に対してソースシステムからさまざまな操作を行えるようになります。このユーティリティは 1 対多数の関係で機能し、Dell システムにある Lifecycle Controller の Remote Enablement 機能を使用します。すべてのターゲットシステムに対してさまざまな操作を一度に実行することができます。

Configuration ユーティリティを起動するには、次の手順を実行します。

- 1 ConfigMgr コンソールで、**Computer Management** (コンピュータの管理) → **Collections** (コレクション) と選択し、**All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックして **Dell Lifecycle Controller → Launch Config Utility** (Config ユーティリティの起動) を選択します。

 **メモ**：Config ユーティリティは、どのコレクションに対しても起動できます。

- 2 **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility** (Dell Lifecycle Controller Configuration ユーティリティ) ウィンドウで、左側のペインに次のオプションが表示されます。
 - 概要
 - Lifecycle Controller 起動メディアの新規作成
 - ハードウェア設定およびオペレーティングシステムの導入
 - ファームウェアインベントリ、比較、およびアップデート
 - ハードウェアインベントリ
 - セッション資格情報、通信の検証
 - Lifecycle Controller の資格情報の変更
 - Lifecycle Controller ログの表示
 - プラットフォームの復元

設定ユーティリティの使い方の詳細については、[設定ユーティリティの使い方](#)を参照してください。

Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration によって、ConfigMgr コンソールから、すべての Dell システムに対して Integrated Dell Remote Access Controller コンソールを起動し、選択したシステムの Integrated Dell Remote Access Controller の設定を表示したり変更することができます。

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration をインストールした後、コレクション内の任意のシステムを右クリックすると、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch iDRAC Console** (iDRAC コンソールの起動) メニューオプションが表示できます。この **Launch iDRAC Console** (iDRAC コンソールの起動) オプションは、Task Viewer でシステムを選択して右クリックした場合にも表示されます。

コレクション下のシステムに対して Integrated Dell Remote Access Controller コンソールを起動するには、次の手順を実行します。

- 1 **Collections** (コレクション) → **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) で任意のシステムを選択します。
- 2 選択したシステムを右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch iDRAC Console** (iDRAC コンソールの起動) メニューオプションをクリックします。システムの Integrated Dell Remote Access Controller コンソールがデフォルトのブラウザに起動されます。
- 3 Integrated Dell Remote Access Controller コンソールにログインするための資格情報を入力し、システムの Integrated Dell Remote Access Controller 設定の詳細を表示または編集します。アクティブディレクトリで認証された資格情報を入力することができます。

Task Viewer からの Integrated Dell Remote Access Controller コンソールの起動

Task Viewer から Integrated Dell Remote Access Controller コンソールを起動するには、次の手順を実行します。

- 1 タスクバーの Dell のアイコンをクリックして、Task Viewer を起動します。このアイコンは、Dell システム上でオペレーティングシステムの導入、ファームウェアアップデートの適用、またはその両方のアクションを行っている最中に表示されます。

オペレーティングシステムの導入の詳細については、[ハードウェアの設定とオペレーティングシステムの導入](#)を参照してください。ファームウェアアップデートの適用の詳細については、[コレクション内のシステムのファームウェアインベントリの比較およびアップデート](#)または[ファームウェアインベントリの比較とアップデート](#)を参照してください。

- 2 Task Viewer 上で任意のシステムを選択して右クリックし、**Launch iDRAC Console** (iDRAC コンソールの起動) メニューオプションを選択します。
- 3 Integrated Dell Remote Access Controller コンソールにログインするための資格情報を入力し、システムの Integrated Dell Remote Access Controller 設定の詳細を表示または編集します。

Task Viewer

Task Viewer はタスクバーに隠れる非同期のコンポーネントで、ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration が処理するタスクのステータスを表示します。オペレーティングシステムの導入や、システムへのファームウェアアップデートの適用など、長い時間を要するタスクはすべて Task Viewer に表示されます。Task Viewer はタスクのキューを維持し、一度に最高 20 のタスクを表示します。

Task Viewer は、次の情報を表示します。

- **Name** (名前)：タスクが実行されているシステムの名前またはサービスタグを表示します。
- **Task** (タスク)：そのシステム上でどのようなタスクが実行されているかを表示します。
- **Status** (ステータス)：システム上で実行されているタスクのステータスを表示します。
- **Start Date/Time** (開始日付 / 時刻)：タスクが開始された日付と時刻を表示します。
- **Time Elapsed** (経過時間)：タスクが開始されてからの経過時間を表示します。

また Task Viewer は、実行されている全タスクのステータス概要を右下隅に表示します。

単一のシステム、またはシステムのコレクションで一連のタスクの実行を開始すると、画面の右下隅のタスクバーに Dell アイコンが表示されます。この Dell アイコンをクリックすると Task Viewer が起動し、さまざまなアクションを行うことができます。

表 3-1 では、Task Viewer で実行できるアクションをリストします。

表 3-1 Task Viewer のアクション

ボタン	動作
閉じる	これをクリックして Task Viewer を終了します。 Task Viewer を終了すると、実行中のタスクはすべてキャンセルされます。したがって、まだ実行中のタスクが存在する場合は、 Task Viewer を閉じないことをお勧めします。
完了したタスクのクリア	ここ をクリックして、完了したタスクおよび失敗したタスクのすべてをグリッドからクリアします。
キューをエクスポート	ここをクリックして、 Task Viewer 内のタスクの現在の状態を .CSV ファイルにエクスポートします。このファイルを使って、実行中の Dell Lifecycle Controller Integration タスクの総数の概要を見ることができます。
ログの表示	ここをクリックして、実行中のタスクの詳細情報を収めたログファイルを表示します。
タスクバーに送る	ここをクリックして、 Task Viewer を最小化してタスクバーに収納します。

Dell Lifecycle Controller Integration を使って実行できるその他のタスク

セキュリティの設定

Dell Lifecycle Controller Integration にセキュリティを設定するには、次を行う必要があります。

- **Integrated Dell Remote Access Controller** で Dell 工場出荷時に発行されたクライアント証明書を検証する。詳細については、[自動検出のための Integrated Dell Remote Access Controller での Dell 工場出荷時発行のクライアント証明書の検証](#)を参照してください。
- 自動検出のため、システムの事前承認を行う。詳細については、[自動検出のためのシステムの事前承認](#)を参照してください。
- 管理者の資格情報を変更する。詳細については、[ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration に使われる管理資格情報の変更](#)を参照してください。

GUI を使ってセキュリティ設定を変更することもできます。詳細については、[グラフィカルユーザーインターフェースの使用](#)を参照してください。

自動検出のための Integrated Dell Remote Access Controller での Dell 工場出荷時発行のクライアント証明書の検証

このセキュリティオプションは、検出中およびハンドシェイクプロセスでプロビジョニングウェブサイトによって検出されたシステムに、Integrated Dell Remote Access Controller に導入されている工場出荷時発行の有効なクライアント証明書が存在することを必要とします。この機能はデフォルトでは有効になっています。この機能を無効化するには、次のコマンドを実行します。

```
[Program Files]\Dell\DPS\Bin\import.exe  
-CheckCertificate false
```



メモ：checkCertificate の値はデフォルトで **true** に設定されています。証明書を 사용하지ない場合は、**CheckCertificate** の値を **false** に設定するようにしてください。

自動検出のためのシステムの事前承認

このセキュリティオプションは、検出されたシステムのサービスタグを、インポートした承認済みサービスタグのリストと照合します。承認済みのサービスタグをインポートするには、サービスタグ一覧が含まれたカンマ区切り形式のファイルを作成し、次のコマンドを実行してそのファイルをインポートします。

```
[Program Files]\Dell\DPS\Bin\import.exe -add  
[カンマ区切りのサービスタグのファイル]
```

このコマンドを実行すると、各サービスタグの記録がリポジトリファイル [Program Files]\Dell\DPS\Bin\Repository.xml に作成されます。

この機能はデフォルトでは無効になっています。この承認チェックを有効にするには、次のコマンドを実行します。

```
[Program Files]\Dell\DPS\bin\import.exe  
-CheckAuthorization false
```

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration に使われる管理資格情報の変更
Dell Lifecycle Controller Integration が使用する ConfigMgr 用のシステム管理資格情報を変更するには、次のコマンドを使用します。

ユーザー名を設定するには

```
[プログラムファイル]\Dell\DPS\Bin\import.exe -CIuserID  
[新しい Console Integration Admin ユーザー ID]
```

パスワードを設定するには

```
[プログラムファイル]\Dell\DPS\Bin\import.exe -CIPassword  
[新しい Console Integration Admin パスワード]
```

グラフィカルユーザーインターフェースの使用

グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使ってセキュリティ設定を変更することもできます。

GUI 画面を開くには、次のコマンドを使用します。

```
[プログラムファイル]\Dell\DPS\Bin\import.exe -DisplayUI
```

Import.exe を使用したターゲットシステム情報のアップデート

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration バージョン 1.0 または 1.1 でシステムを検出して、それをバージョン 1.2 以降にアップグレードした後にファームウェアのアップデートを行った場合、OS の導入中にホスト名を変更していれば、それらのシステムの再検出を行う必要があります。

システムの再検出を回避し、ホスト名の変更機能が有効に働くようにするには、次の手順を実行します。

- 1 ターゲットシステムでコマンドプロンプトを起動します。
- 2 **Program Files\Dell\DPS\Bin** フォルダに移動します。
- 3 コマンド `import.exe -Servers` を入力します。

ConfigMgr データベースは、ターゲットシステムの最新のファームウェア情報でアップデートされます。**Program Files\Dell\DPS\Logs** フォルダの **import.log** ファイルを検証することにより、すべてのシステムの情報が正しくアップデートされたかどうかを確認できます。

Array Builder の使用

Array Builder では、利用可能なすべての RAID 設定、あらゆるサイズの論理ドライブまたは仮想ディスク、または空き容量のすべてを使用してアレイおよびディスクセットを定義すること、および個々のアレイにホットスペアを割り当てたり、コントローラにグローバルホットスペアを割り当てたりすることが可能になります。

コントローラが作成されるとき、有効な設定を指定するためにデフォルトの変数条件、アレイ、ディスクが作成されます。また、ディスクを非 RAID に設定してコントローラを未設定のままにしたり、アレイの追加やその他のアクションを行うこともできます。

Array Builder によるルールの定義

次ような条件に基づいて、設定に一致するルールを定義できます。

- コントローラが装備された検出済みのスロット番号、または内蔵コントローラのみ (ある場合)。
- コントローラに接続されているディスクの数。
- **Array Builder** が検出した任意のコントローラに、包括的な設定を提供。

また、サーバー上で検出された RAID プロファイルに基づいて設定ルールを適用することもできます。これによって、検出されたハードウェアが同一の場合にも異なるサーバーに異なる設定を定義できるようになります。

Array Builder を使用した RAID プロファイルの作成

RAID プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **System Viewer** ユーティリティの **RAID Configuration** (RAID 設定) 画面の中の **Create a RAID Profile** (RAID プロファイルの作成) をクリックして、**Array Builder** を起動します。
Array Builder を起動すると、デフォルトの内蔵コントローラが作成されます。
- 2 **Configuration Rule Name** (設定ルール名) フィールドに設定ルール名を入力します。
- 3 ドロップダウンメニューからエラー処理ルールを選択します。次から選択できます。
 - **Fail the task if any controller does not match a configuration rule** (設定ルールに一致しないコントローラがあればタスクを失敗させる) — 検出されたコントローラのいずれかがルールに従って設定できない場合は失敗を報告します。
 - **Fail the task only if the first controller does not match a configuration rule** (最初のコントローラが設定ルールに一致しない場合のみタスクを失敗させる) — 最初に検出されたコントローラ (通常、内蔵コントローラ) がルールに従って設定できない場合に失敗を報告します。
 - **Fail the task only if none of the array controllers match a configuration rule** (どのアレイコントローラも設定ルールに一致しない場合のみタスクを失敗させる) — システム内のどのコントローラもルールに一致しない場合のみ失敗を報告します。つまりどのコントローラも設定されません。このルールは、コントローラが RAID を設定するために十分なディスクがない場合にも失敗します。
- 4 新しいコントローラを追加して、それらのコントローラ用のルールを定義します。またはデフォルトのコントローラを編集してルールを定義します。詳細については、[コントローラ](#)を参照してください。
- 5 デフォルトコントローラまたは追加したコントローラ用の変数条件を追加または編集します。詳細については、[変数条件](#)を参照してください。
- 6 必要があれば、変数条件から新しいアレイを作成します。詳細については、[アレイ](#)を参照してください。
- 7 アレイを作成したら、そのアレイに追加のディスク、ホットスペア、またはグローバルホットスペアを追加します。

- 8 **Save** (保存) をクリックして、そのプロファイルを **.XML** ファイルとして保存します。

既存のプロファイルをインポートし、**Array Builder** を使用してその設定を変更することもできます。プロファイルのインポートの詳細については、[プロファイルのインポート](#) を参照してください。

Array Builder の作成について

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration のオペレーティングシステム導入の過程の一部として **Array Builder** で作成した **RAID** プロファイルを使用すると、**Array Builder** はサーバー上の既存のコントローラのほか、各コントローラに接続されたディスクを検出します。次に **Array Builder** は、ユーティリティが検出した物理構成を、設定ルールで定義した論理構成に一致させようと試みます。これらのアレイ設定ルールは、グラフィカル論理レイアウトを使って定義し、アレイコントローラがどのように設定されるかをビジュアル表示できます。ルールは **Array Builder** ツリーに表示されている順に処理されるので、ルールの優先順位が正確に把握できます。

コントローラ

コントローラ要素には変数条件要素が含まれます。コントローラは次のいずれかの設定タイプです。

- 組み込みコントローラ
- スロット「X」にあるコントローラ
- 「X」台のディスクを持つコントローラ
- 「X」台以上のディスクを持つコントローラ
- その他のすべてのコントローラ

コントローラの追加

コントローラを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 リストからコントローラを選択するか、または内蔵コントローラを選択します。左ペインの **Controllers** (コントローラ) ドロップダウンメニューが有効になります。
- 2 **Controllers** (コントローラ) → **New Controller** (新しいコントローラ) とクリックします。**Controller Configuration** (ネットワーク設定) ウィンドウが表示されます。
- 3 **Controller Selection Criteria** (コントローラを選択条件) で次のいずれかのオプションを選択します。
 - **Select the controller located in slot** (スロットにあるコントローラを選択) — 選択するコントローラのスロット番号を入力します。

- **Select any controller with <exactly, atleast> <number of> disks attached** (<ちょうど、少なくとも> <台数> 台のディスクが接続されているコントローラを選択) — 選択されたのと同じ、またはそれ以上の台数のディスクを持つコントローラを選択するためのルールを設定します。
 - **Select all remaining controllers in the system regardless of configuration** (どのような設定かに関らず、残りのすべてのコントローラを選択)
- 4 **Variable Matching Criteria** (変数一致条件) では、選択した条件に一致する場合にのみこの設定を適用するようにルールを設定できます。ルールの設定オプションを有効にするには、**Apply this configuration only when the variable** (変数の場合に限りこの設定を適用) を選択します。
- 5 **OK** をクリックします。

コントローラの編集

コントローラを編集するには、次の手順を実行します。

コントローラを選択し、**Controllers** (コントローラ) → **Edit Controller** (コントローラの編集) とクリックします。コントローラの設定を変更ができる、**Controller Configuration** (コントローラの設定) ウィンドウが開きます。

コントローラの削除

コントローラを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 コントローラを選択し、**Controllers** (コントローラ) → **Delete Controller** (コントローラの削除) とクリックします。コントローラを削除すると接続されているすべてのアレイとディスクが削除される旨の警告メッセージが表示されます。
- 2 **Yes** (はい) をクリックして削除するか、**No** (いいえ) をクリックしてキャンセルします。



メモ: サーバーには最低 1 台のコントローラが必要です。コントローラが 1 台しかない場合にそれを削除すると、最後のコントローラが削除されたのでデフォルトコントローラが挿入されたというメッセージが表示されます。

変数条件

複数の論理設定において同一の RAID 設定を使用できるようにするために、変数評価が提供されています。これによって、状況に応じてアレイや論理ドライブの異なる設定を適用できるようになります。

変数条件の要素には、アレイやグローバルホットスベアなどがあり、次の 2 種類に分類されます。

- 変数未定義：すべてのコントローラに挿入されるデフォルト設定で、削除や最後からの移動はできません。
- 変数定義済み：定義済みの演算子を使って変数を比較します。



メモ：ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration は、暗号化されたフォーマットで作成された変数はサポートしません。

新しい変数条件の追加

新しい変数条件を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 組み込みコントローラで **Embedded Controller** (内蔵コントローラ) を展開し、**[No variable conditions defined]** ([変数条件は定義されていません]) をクリックします。
- 2 **Variables** (変数) → **New Variable Condition** (新しい変数条件) をクリックします。**Variable Condition Configuration** (変数条件の設定) ウィンドウが表示されます。
- 3 **Variable Matching Criteria** (変数一致条件) では、選択した条件に一致する場合にのみこの変数を適用するようにルールを設定できます。
- 4 **OK** をクリックして変数条件を適用するか、**Cancel** (キャンセル) をクリックして **Array Builder** に戻ります。

変数条件の編集

変数条件を編集するには、次の手順を実行します。

- 1 変数条件を選択し、**Variables** (変数) → **Edit Variable Condition** (変数条件の編集) をクリックします。**Variable Condition Configuration** (変数条件の設定) ウィンドウが開きます。この画面で変数条件を変更できます。
- 2 **OK** をクリックして変数条件を適用するか、**Cancel** (キャンセル) をクリックして **Array Builder** に戻ります。

変数条件の削除

変数条件を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 変数条件を選択し、**Variables** (変数) → **Delete Variable Condition** (変数条件の削除) をクリックします。接続されているすべてのアレイとディスクが削除されるというメッセージが表示されます。

- 2 **Yes** (はい) をクリックして削除するか、**No** (いいえ) をクリックしてキャンセルします。

アレイ

アレイノードには、異なるアイコンで表示される RAID アレイと非 RAID ディスクグループの両方が含まれています。コントローラの作成時にデフォルトで非 RAID ディスクグループが 1 つ作成されます。コントローラの設定に必要なディスク台数が指定されている場合は、その数と同じ台数のディスクが非 RAID グループに追加されます。

コントローラの設定と使用可能なディスク台数に応じて、アレイは追加、変更、または削除できます。

アレイ要素には、論理ドライブと物理ディスクが含まれます。

新しいアレイの追加

新しいアレイを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 変数条件で変数条件を選択し、**Arrays** (アレイ) → **New Array** (新しいアレイ) をクリックします。**Array Settings** (アレイの設定) ウィンドウが表示されます。
- 2 **RAID Level** (RAID レベル) ドロップダウン メニューから必要な RAID レベルを選択します。
- 3 RAID レベルが 50 または 60 の場合は、アレイのスパン長を入力します。
- 4 **OK** をクリックしてアレイを適用するか、**Cancel** (キャンセル) をクリックして **Array Builder** に戻ります。

アレイの編集

アレイを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 アレイを選択し、**Arrays** (アレイ) → **Edit Array** (アレイの編集) をクリックします。**Array Settings** (アレイの設定) ウィンドウが表示されます。ここではアレイの異なる RAID レベルを選択できます。
- 2 **OK** をクリックして変更を適用するか、**Cancel** (キャンセル) をクリックして **Array Builder** に戻ります。

アレイの削除

アレイを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 アレイを選択し、**Arrays** (アレイ) → **Delete Array** (アレイの削除) をクリックします。接続されているすべてのディスクが削除されるというメッセージが表示されます。
- 2 **Yes** (はい) をクリックして削除するか、**No** (いいえ) をクリックしてキャンセルします。

論理ドライブ（仮想ディスクとも呼ばれる）

論理ドライブは RAID アレイと非 RAID グループのいずれにも含めることができます。論理ドライブのサイズは、サイズを指定（GB 単位）して設定、または利用可能な（あるいは残存している）すべての容量を使用するように設定することもできます。デフォルトでは、すべての新規アレイに対して論理ドライブが 1 台作成され、使用可能な全容量を使用するように設定されます。

サイズ指定の論理ドライブが定義されている場合は、それらの論理ドライブにアレイ上の容量が割り当てられた後で、さらに残っている容量があれば 残存全容量を使用する 指定の論理ドライブに割り当てられます。



メモ： Array Builder は、サイズが 10 GB、50 GB、または 60 GB の論理ドライブの作成をサポートしません。また、非 RAID グループに属する論理ドライブの作成をサポートしません。

新しい論理ドライブの追加

新しい論理ドライブをアレイに追加するには、次の手順を実行します。

- 1 アレイを選択し、**Logical Drives**（論理ドライブ）→ **New Logical Drive**（新しい論理ドライブ）をクリックします。**Logical Drive Settings**（論理ドライブの設定）ウィンドウが表示されます。
- 2 **Create a logical drive**（論理ドライブの作成）の下に、論理ドライブに必要なギガバイト数を入力します。
- 3 **OK** をクリックして論理ドライブを適用するか、**Cancel**（キャンセル）をクリックして **Array Builder** に戻ります。

論理ドライブの編集

論理ドライブを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 論理ドライブを選択し **Logical Drives**（論理ドライブ）→ **Edit Logical Drive**（論理ドライブの編集）をクリックします。**Logical Drive Settings**（論理ドライブの設定）ウィンドウが表示されます。
- 2 論理ドライブのサイズを変更します。
- 3 **OK** をクリックして論理ドライブを適用するか、**Cancel**（キャンセル）をクリックして **Array Builder** に戻ります。

論理ドライブの削除

論理ドライブを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 論理ドライブを選択し **Logical Drives**（論理ドライブ）→ **Delete Logical Drive**（論理ドライブの削除）をクリックします。削除を確認するメッセージが表示されます。
- 2 **Yes**（はい）をクリックして削除するか、**No**（いいえ）をクリックしてキャンセルします。

ディスク (アレイディスクとも呼ばれる)

アレイ (または非 RAID ディスクノード) に含めるディスクを次のタイプとして指定できます。

- 標準ディスク — 基本的な未定義ディスクタイプで、アレイ上のストレージを構成します。
- ホットスペア — 特定のアレイに割り当てられている RAID ディスクに障害が起きた場合に、オンライン冗長性を提供するディスクです。
- 残りの全ディスク — これらのディスクは、正確なディスク台数を指定せずにアレイを定義するオプションを提供します。

コントローラの設定に必要なディスク台数が指定されている場合は、その数と同じ台数のディスクが非 RAID グループに追加されます。コントローラに必要なディスク台数が正確に指定されている場合は、そのコントローラからはディスクの追加も削除できず、アレイからアレイ (または非 RAID グループ) とディスクを移動することのみが可能です。コントローラにディスクの最小台数が指定されている場合は、ディスクの追加や削除はできますが、指定されている最小台数以上に保つ必要があります。

新しいディスクの追加

新しいディスクをアレイに追加するには、そのアレイを選択して **Disks** (ディスク) → **New Disk** (新規ディスク) をクリックします。

以下から選択できます。

- ディスク 1 台
- 複数ディスク
- ホットスペア (現在のアレイのみ)
- グローバルホットスペア (すべてのアレイ)

ディスクの変更

ディスクを変更するには、そのディスクをクリックして **Disks** (ディスク) → **Change Disk** (ディスクの変更) を選択します。

ディスクは次のいずれかに変更できます。

- 標準ディスク
- ホットスペア (現在のアレイのみ)
- グローバルホットスペア (すべてのアレイ)

ディスクの削除

ディスクを削除するには、そのディスクをクリックして **Disks** (ディスク) → **Delete Disk** (ディスクの削除) を選択します。

プロファイルのインポート

このメニュー項目では、既存の **Array Builder** プロファイルの検索およびインポートが可能です。XML プロファイルのファイルは適切にフォーマットされている必要があります。正しくフォーマットされていないと、**ConfigMgr** によって自動的に変更され、変更が通知されます。

既存の **Array Builder XML** ファイルを別の場所からインポートするには、**Import a Profile**（プロファイルのインポート）をクリックします。

設定ユーティリティの使い方

本項では、Dell Lifecycle Controller Configuration ユーティリティで実行できるさまざまな操作について説明します。

ConfigMgr コンソールの Config ユーティリティは、次の用途に使用できます。

- Lifecycle Controller の起動メディアを作成して、リモートでオペレーティングシステムを導入する。詳細については、[Lifecycle Controller 起動メディアの作成](#)を参照してください。
- コレクション内のターゲットシステムでハードウェアを設定し、オペレーティングシステムを導入する。詳細については、[ハードウェアの設定とオペレーティングシステムの導入](#)を参照してください。
- コレクション内すべてのシステムについて、現在のファームウェアインベントリの表示してベースラインとの比較を行い、レポジトリを使用してファームウェアをアップデートする。詳細については、[コレクション内のシステムのファームウェアインベントリの比較およびアップデート](#)を参照してください。



メモ：レポジトリの作成には、Dell Repository Manager を使用できます。Dell Repository Manager の詳細については、support.dell.com/manualsにある『Dell Repository Manager ユーザーズガイド』を参照してください。

- コレクション内のすべてのシステムの現在のハードウェアインベントリを表示する。詳細については、[ハードウェアインベントリの表示](#)を参照してください。
- 現在のセッションに Lifecycle Controller 資格情報を設定し、Dell LC との通信およびユーザーアカウントの検証を行う。詳細に関しては、[Lifecycle Controller との通信の検証](#)を参照してください。
- ターゲット先の Dell システムのコレクションで Lifecycle Controller 資格情報の変更および設定を行う。詳細に関しては、[Lifecycle Controller の資格情報の変更](#)を参照してください。
- コレクションの Lifecycle Controller ログを表示、エクスポートする。詳細については、[コレクションの Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート](#)を参照してください。
- コレクション内のシステムのプラットフォーム情報を復元するタスクを実行する。これには次が含まれます。
 - コレクション内のすべてのシステムのシステムファイルのエクスポート。
 - コレクション内のすべてのシステムのシステムファイルのインポート。
 - コレクションの部品交換プロパティの設定。

詳細については、[コレクションのプラットフォーム復元](#)を参照してください。

- コレクション内のシステムと NIC 設定プロファイルを比較する。詳細については、[NIC/CNA プロファイルのコレクション内システムとの比較](#)を参照してください。



メモ：Dell Lifecycle Controller Integration は、上記すべてのアクションを同時に 20 のシステムで実行できます。コレクション内に 100 のシステムがある場合には、最初の 20 システムがまずアップデートされ、それから次に続く 20 システムが処理されていくことになります。

Lifecycle Controller 起動メディアの作成

オペレーティングシステムをリモートから導入するには、Lifecycle Controller の起動メディアを作成します。

Lifecycle Controller の起動メディアを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **ConfigMgr** コンソールで、**Computer Management**（コンピュータの管理）→ **Collections**（コレクション）と選択し、**All Dell Lifecycle Controller Servers**（すべての Dell Lifecycle Controller サーバー）を右クリックして **Dell Lifecycle Controller**→ **Launch Config Utility**（Config ユーティリティの起動）を選択します。



メモ：Config ユーティリティ はどのコレクションのものでも起動できます。

- 2 **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility**（Dell Lifecycle Controller Configuration ユーティリティ）ウィンドウの左ペインで **Create new Lifecycle Controller Boot Media**（新規の Lifecycle Controller 起動メディアの作成）を選択します。
- 3 **Browse**（参照）をクリックして、作成した起動 ISO を選択します。詳細については、[タスクシーケンスメディア（ブータブル ISO）の作成](#)を参照してください。
- 4 Dell Lifecycle Controller 起動メディアを保存するフォルダ/パスを指定します。
 **メモ**：起動メディアはローカルドライブに保存し、必要があればネットワーク上の場所にコピーすることをお勧めします。
- 5 **Create**（作成）をクリックします。

Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有ロケーションの設定

Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有ロケーションを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 ConfigMgr コンソールで、**System Center Configuration Manager** (システム設定マネージャ) → **Site Database** (サイトデータベース) → **Site Management** (サイト管理) → <サイトサーバー名> → **Site Settings** (サイト設定) → **Component Configuration** (コンポーネントの設定) と選択します。
- 2 **Component Configuration** (コンポーネントの設定) ウィンドウで、**Out of Band Management** (帯域外管理) を右クリックして **Properties** (プロパティ) を選択します。 **Out of Band Management Properties** (帯域外管理のプロパティ) ウィンドウが表示されます。
- 3 **Dell Lifecycle Controller** タブをクリックします。
- 4 カスタム Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所を変更するには、**Default Share Location for Custom Lifecycle Controller Boot Media** (カスタム Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有場所) の下で **Modify** (変更) をクリックします。
- 5 **Modify Share Information** (共有情報の変更) ウィンドウで、新しい共有名と共有パスを入力します。 **OK** をクリックします。

ハードウェアの設定とオペレーティングシステムの導入

オペレーティングシステムのリモート導入は、Integrated Dell Remote Access Controller を使用して、自動検出されたシステムに、ターゲットオペレーティングシステムの無人インストールを実行する機能です。

この機能には、次が含まれます。

- Dell リポジトリからファームウェアをアップデートする。
- ハードウェアの設定を変更する。
- NIC または CNA プロファイルを一連のターゲットシステムに適用することを可能にする。
- RAID 設定を変更する。
- Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを一連のターゲットシステムに適用することを可能にする。
- 導入するアドバタイズメントおよびオペレーティングシステムの選択を可能にする。
- オペレーティングシステムの導入に使用する起動メディアの選択を可能にする。

プレオペレーティングシステムイメージはネットワーク上の仮想メディアとしてマウントされ、ターゲットのホストオペレーティングシステムのドライバは、ConfigMgr コンソールのリポジトリまたは Lifecycle Controller のいずれか

から適用されます。Lifecycle Controller からドライバを選択した場合、サポートされるオペレーティングシステムのリストは、Integrated Dell Remote Access Controller でフラッシュされた最新のドライバパックに基づきます。また、ISO イメージを vFlash SD カードにダウンロードして、その ISO イメージからシステムを起動することもできます。



メモ：vFlash 機能は、Integrated Dell Remote Access Controller バージョン 1.3 以降のファームウェアを搭載したラックとタワーサーバー、または Integrated Dell Remote Access Controller バージョン 2.2 以降を搭載したブレードサーバー上でしか使用できません。


オペレーティングシステムのリモート導入、および vFlash 上のオペレーティングシステムイメージからのステージングと起動の詳細については、support.dell.com/manuals の『Dell Lifecycle Controller ユーザーガイド』を参照してください。

ハードウェア設定および OS の導入ワークフロー

コレクションにオペレーティングシステムを導入するには、次の手順を実行します。


- 1 ConfigMgr コンソールで、**Computer Management**（コンピュータの管理）→ **Collections**（コレクション）と選択し、**Managed Dell Lifecycle Controllers (OS Unknown)**（管理対象 Dell Lifecycle Controller（OS 不明））を右クリックして **Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility**（Config ユーティリティの起動）を選択します。
- 2 Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティウィンドウで、**Deploy Operating System**（オペレーティングシステムの導入）を選択します。
- 3 コレクションのファームウェアをアップデートする場合は、**Update Firmware from a Dell Repository**（Dell リポジトリからファームウェアをアップデート）を選択します。詳細については、[OS 導入中の iDRAC6 ファームウェアのアップデート](#)を参照してください。**Next**（次へ）をクリックします。
- 4 ハードウェアの設定を変更する場合は、**Configure Hardware**（ハードウェアの設定）を選択します。詳細については、[オペレーティングシステム導入中のハードウェアの構成](#)を参照してください。**Next**（次へ）をクリックします。
- 5 サーバーの RAID を設定するには、**Configure RAID**（RAID の設定）を選択します。詳細については、[RAID の設定](#)を参照してください。**Next**（次へ）をクリックします。
- 6 ネットワークアダプタプロファイルをコレクションに適用する場合、**Configure network adapter**（ネットワークアダプタの設定）を選択します。詳細については、[コレクションへの NIC または CNA プロファイルの適用](#)を参照してください。**Next**（次へ）をクリックします。

- 7 Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルをコレクションに適用する場合は、**Configure iDRAC** (iDRAC の設定) を選択します。詳細については、[コレクションへの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの適用](#)を参照してください。
 - 8 オペレーティングシステムのコレクションへの導入を省略したい場合、アドバタイズ画面で **Do not deploy operating system** (オペレーティングシステムを導入しない) を選択します。


この場合、**Next** (次へ) ボタンが無効化され、直接 **Reboot targeted collection** (ターゲット先コレクションの再起動) をクリックできます。ハードウェアの設定タスクは、前の手順で行った選択に基づいて送信され、タスクのステータスは [Task Viewer](#) で表示できます。
 - 9 オペレーティングシステムを導入する場合、コレクションに対してタスクシーケンスをアドバタイズするアドバタイズメント、およびそのコレクションに導入するオペレーティングシステムを選択します。
 - 10 **Select Lifecycle Controller bootable media** (Lifecycle Controller 起動メディアを選択) の下から次のオプションのいずれかを 1 つ選択します。
 - **Boot to Network ISO** (ネットワーク ISO から起動) — 指定した ISO から再起動します。
 - **Stage ISO to vFlash and Reboot** (ISO を vFlash にステージングして再起動) — ISO を vFlash にダウンロードして再起動します。
 - **Reboot to vFlash (ISO Must be present on vFlash)** (vFlash から再起動 (ISO が vFlash 上にあることが必要)) — vFlash から再起動します。vFlash に ISO があることを確認します。
 - ISO を予備の手順にするには、**Use Network ISO as Fallback** (ネットワーク ISO を予備として使用) チェックボックスを選択します。
 - **Browse** (参照) をクリックし、Dell Lifecycle Controller の起動メディアが保存されているパスを選択します。
-  **メモ:** Lifecycle Controller の 起動メディアの場所としてデフォルトの共有ロケーションを設定した場合は、自動入力されます。詳細については、[Lifecycle Controller 起動メディアのデフォルト共有ロケーションの設定](#)を参照してください。
- 11 Dell Lifecycle Controller の起動メディアがある共有ロケーションにアクセスするためのユーザー名とパスワードを入力します。
 - 12 **Reboot Targeted Collection** (ターゲットコレクションを再起動) をクリックします。これによって、コレクション内の各システムの再起動ジョブが [Task Viewer](#) に送られます。キュー内に現在あるタスクとそれらの状

態を表示するには、タスクバーにある Dell アイコンをクリックして Task Viewer を実行します。Task Viewer の詳細については、[Task Viewer](#) を参照してください。

Integrated Dell Remote Access Controller 搭載のシステムが **WS-MAN** コマンドを受信すると、Windows PE から再起動し、アドバタイズされたタスクシーケンスを実行します。その後、タスクシーケンスで作成した起動順序によっては、Lifecycle Controller の起動メディアから自動的に起動します。

 **メモ：**オペレーティングシステムの導入後にシステムのアップデートを行い時に、そのシステムのサービスがまだ利用可能になっていない場合には、Integrated Dell Remote Access Controller 6 の Web ベースのインタフェースを使用して Integrated Dell Remote Access Controller をリセットすることができます。詳細については、support.dell.com/manuals にある『Dell Lifecycle Controller Remote Services ユーザーズガイド』を参照してください。

導入が正しく行われると、Integrated Dell Remote Access Controller 搭載のシステムは **Computer Management** (コンピュータの管理) → **Collections** (コレクション) → **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) 下の **Managed Dell Lifecycle Controller (OS Deployed)** (Managed Dell Lifecycle Controller (OS 導入済み)) コレクションに移動します。

 **メモ：**オペレーティングシステムの導入後にターゲットシステムのホスト名を変更した場合でも、そのシステムは ConfigMgr コンソールの **Managed Dell Lifecycle Controller (OS Deployed)** (管理対象 Dell Lifecycle Controller (OS 導入済み)) コレクションに引き続き表示されます。ホスト名を変更した場合でも、システムの再検出を行う必要はありません。

OS 導入中の iDRAC6 ファームウェアのアップデート

ファームウェアをアップデートするには、次の手順を実行してください。

- 1 次のオプションのいずれかを選択します。
 - **Dell PDK catalog** (Dell PDK カタログ) — ファームウェアインベントリの比較に使用する Dell PDK カタログを指定します。PDK カタログを指定するには、次の手順を実行します。
 - **Browse** (参照) をクリックし、使用するカタログを保存した場所に移動します。このカタログは、お使いのシステムの Dell Lifecycle Controller でアクセス可能な CIFS 共有上に保存されている必要があります。
 - このカタログを使ってファームウェアインベントリをアップデートする場合は、そのカタログが保存されている CIFS 共有にログインするためのユーザー名とパスワードを指定します。カタログの表示やカタログとの比較のみを行う場合には、ユーザー名とパスワードを指定する必要はありません。

- **FTP: ftp.dell.com** — Dell FTP サイトに接続してアップデートをダウンロードします。
 - **Firmware inventory profile** (ファームウェアインベントリプロフィール) — 既存のプロファイルと比較して、システムのファームウェアをアップデートします。**Browse** (参照) をクリックして、プロフィールを保存したロケーションに移動します。
- 2 **Next** (次へ) をクリックします。画面にお使いのコレクションのサーバーのファームウェア詳細、およびファームウェアのベースラインバージョンが表示されます。
 - 3 新しいファームウェアでアップデートするサーバーを選択して、**Next** (次へ) をクリックします。次の画面で、ファームウェアダウンロードの進捗状態が表示されます。
 - 4 ファームウェアのダウンロードが終了したら、次へをクリックしてシステムのハードウェアの設定を行います。

オペレーティングシステム導入中のハードウェアの構成

ハードウェアの設定を行うには、次の手順を実行します。

- 1 **Browse** (参照) をクリックし、**System Viewer** を使用して作成したハードウェアプロフィールを選択します。このプロフィールは、オペレーティングシステム導入プロセス中に適用されます。ハードウェアプロフィールの作成の詳細については、[新規プロフィールの作成](#)を参照してください。
- 2 この手順に失敗しても次の手順に進みたい場合は、**Continue on Error** (エラー時に続行) を選択します。このオプションは、デフォルトでは選択されています。このオプションのチェックをオフにすると、ハードウェアの設定プロセスでエラーが発生した場合、プロセスは中止されます。
- 3 **Next** (次へ) をクリックして、RAID の設定に進みます。

RAID の設定

RAID を設定するには

- 1 **Browse** (参照) をクリックし、**System Viewer** ユーティリティを使用して作成した RAID プロファイルを選択します。このプロフィールは、オペレーティングシステム導入プロセス中に適用されます。RAID プロファイルの作成の詳細については、[Array Builder の使用](#)を参照してください。
- 2 **Next** (次へ) をクリックしてネットワークアダプタを設定します。



メモ：システムの RAID 設定を行うと、元のコントローラ設定はリセットされ、設定済みの仮想ディスク (VD) やその他の設定はすべて消去されます。

コレクションへの NIC または CNA プロファイルの適用



メモ：ConfigUtility で属性値を適用すると、依存する属性の値はチェックされません。

サポートされる CNA については、Lifecycle Controller マニュアルを参照してください。

ネットワークアダプタを設定して、コレクションに NIC/CNA プロファイルを適用するには、次の手順を実行します。

- 1 **Browse** (参照) をクリックし、**System Viewer** ユーティリティを使用して作成した **NIC/CNA** プロファイルを選択します。このプロファイルは、ハードウェアの設定プロセス中に適用されます。NIC/CNA プロファイルの作成の詳細については、[NIC/CNA プロファイルの作成](#) を参照してください。
- 2 シンプル NIC プロファイルを選択する場合、ターゲットシステムで **Unified Server Configurator** を起動することによってプロファイル内の全設定がターゲットシステムに適用されているかどうかを検証できます。
- 3 **Broadcom CNA** プロファイルを選択する場合、設定が表 4-1 に基づいて適用されるかどうかを検証できます。

表 4-1 **Broadcom** プロファイル設定

S.No	ターゲットサーバー設定	プロファイル設定	適用される設定
1.	デュアルポート NIC (パーティション無効)	デュアルポート NIC デュアルポートクアド パーティション NIC	デュアルポートクアド パーティション NIC パーティションは、シ ステムの再起動時に有効化 されます。
2.	デュアルポート NIC (パーティション無効)	デュアルポート NIC	デュアルポート NIC ポートレベルの設定は、 システムの再起動時に適 用されます。
3.	デュアルポート NIC (パーティション無効)	デュアルポートクアド パーティション NIC	デュアルポートクアド パーティション NIC パーティションは、シ ステムの再起動時に有効化 されます。
4.	デュアルポートクアド パーティション NIC	デュアルポート NIC デュアルポートクアド パーティション NIC	デュアルポートクアド パーティション
5.	デュアルポートクアド パーティション NIC	デュアルポート NIC	ターゲットサーバー設定 とプロファイル設定に一 致がないので、何も適用 されません。
6.	デュアルポートクアド パーティション NIC	デュアルポートクアド パーティション NIC	デュアルポートクアド パーティション

4 **Next** (次へ) をクリックして、Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを適用します。



メモ：NIC/CNA プロファイルの適用中にエラーが発生した場合、OS 導入プロセスは次のステップに進みます。ConfigUtility を使用した属性の適用中は、依存する属性値はチェックされません。

コレクションへの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの適用

Integrated Dell Remote Access Controller を設定し、コレクションに Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを適用するには、次の手順を実行します。

- 1 **Browse** (参照) をクリックして、**System Viewer** ユーティリティを使用して作成した Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを選択します。このプロファイルは、ハードウェアの設定プロセス中に適用されます。Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの作成の詳細については、[Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの作成](#)を参照してください。
- 2 Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを選択した後、設定が次のパラメータに基づいて適用されたかどうかを検証できます。

表 4-2 Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの設定

S.No	ターゲットサーバー	プロファイル設定	適用可能な設定
1.	ラック型システムとタワー型システム	4 タイプすべての属性が設定されます。	Integrated Dell Remote Access Controller プロファイル内のすべての属性。
2.	ブレードシステム	4 タイプすべての属性が設定されます。	<ul style="list-style-type: none">• 共通 IP 設定のすべての属性。• IPv4 設定のすべての属性。• LAN 詳細設定からの vLAN ID および vLAN 優先度属性のみ。
3.	静的 IP アドレスを持つラック、タワーまたはブレードシステム	IPv4 設定属性のみ	IPv4 アドレスソースがアップデートされます。

表 4-2 Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの設定 (続き)

S.No	ターゲットサーバー	プロファイル設定	適用可能な設定
4.	ラック、タワーまたはブレードシステム	LAN 設定属性のみ	ラックおよびタワーシステムのみに適用され、ブレードシステムには適用されません。
5.	ラック、タワーまたはブレードシステム	LAN 詳細設定属性のみ	LAN 詳細設定属性のすべてがラックおよびタワーシステムに適用されます。 vLAN ID および vLAN 優先度属性のみがブレードシステムに適用されます。
6.	ラック、タワーまたはブレードシステム	共通の IP 設定属性のみ	共通の IP 設定属性
7.	iDRAC6 エンタープライズカード未装備のラック、タワーまたはブレードシステム	NIC モードが専用 に設定されている LAN 設定	この属性には iDRAC6 エンタープライズカードが必要なので、何も適用されません。
8.	ラック、タワーまたはブレードシステム	NIC モードが共有 に設定されている LAN 設定	属性は、ホストオペレーティングシステムが NIC チェーミングに設定されている場合に限り、ラックおよびタワーシステムのみに適用されます。
9.	ラック、タワーまたはブレードシステム	指定された IP 範囲がシステム数未満の IPv4 設定	何も適用されず、OS 導入ワークフローにエラーが表示されます。
10.	Unified Server Configurator から起動されたラック、タワーまたはブレードシステム	4 タイプすべての属性が設定されます。	すべての属性がシステムに適用可能です。

3 Next (次へ) をクリックして、アドバタイズメントを選択します。



メモ: Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの適用中にエラーが発生すると、OS 導入プロセスは停止します。

コレクション内のシステムのファームインベントリの比較およびアップデート

この機能により、コレクション内の Lifecycle Controller を搭載した Dell システムのファームインベントリの取得、比較、およびアップデートを行うことができます。



メモ： リモートでのファームウェアの比較とアップデートを行うには、Dell システムに搭載されている iDRAC6 のファームウェアバージョンが 1.5 またはそれ以降である必要があります。ファームウェアバージョン 1.5 へのアップグレードの詳細については、support.dell.com/manuals の『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) バージョン 1.5 ユーザーガイド』を参照してください。

ファームウェアインベントリの比較とアップデートを行うには、次の手順を実行します。

- 1 **ConfigMgr コンソールで、System Center Configuration Manager → Site Database (サイトデータベース) → Computer Management (コンピュータ管理) → Collections (コレクション)** と選択し、**All Dell Lifecycle Controller Server** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックして **Dell Lifecycle Controller → Launch Config Utility** (Config ユーティリティの起動) を選択します。
- 2 **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility** (Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ) の左ペインで、**Firmware Inventory, Compare, and Update** (ファームウェアのインベントリ、比較、およびアップデート) を選択します。
- 3 次のオプションからベースラインを選択します。
 - **Dell PDK Catalog** (Dell PDK カタログ) — ファームウェアインベントリと比較するための Dell PDK カタログを指定します。PDK カタログを指定するには、次の手順を実行します。
 - **Browse** (参照) をクリックし、使用するカタログを保存した場所に移動します。このカタログは、お使いのシステムの Dell Lifecycle Controller にアクセス可能な CIFS 共有上に保存されている必要があります。
 - このカタログを使ってファームウェアインベントリをアップデートする場合は、そのカタログが保存されている CIFS 共有にログインするための **User Name** (ユーザー名) と **Password** (パスワード) を指定します。カタログの表示やカタログとの比較のみを行う場合には、ユーザー名とパスワードを指定する必要はありません。



メモ： ファームウェアインベントリの更新を行うには、ローカルのリポジトリを指定する必要があります。

- **FTP: ftp.dell.com** — ファームウェアインベントリと比較するため、Dell FTP サイトのカタログに接続します。
 - **Firmware Inventory Profile** (ファームウェアインベントリのプロフィール) — 保存した既存のプロファイルを指定し、これを使ってコレクションのファームウェアインベントリの比較およびアップデートを行います。
- 4 **Next** (次へ) をクリックします。 **Firmware Inventory, Compare, and Update** (ファームウェアのインベントリ、比較、およびアップデート) 画面に、次の情報が表示されます。
- **Name** (名前) — コレクション内のシステムの名前を表示します。
 - **Model** (モデル) — システムのモデル情報を表示します。
 - **Component** (コンポーネント) — サーバー上の利用可能なコンポーネントが表示されます。
 - **Version** (バージョン) — コンポーネントのファームウェアバージョンを表示します。
 - **Baseline** (ベースライン) — コンポーネントのベースラインファームウェアバージョンを表示します。
 - **Criticality** (重大性) — ファームウェアのステータスを表示し、お使いのシステムのファームウェアが適正であるか、あるいはアップデートが必要かどうかを示します。
- 5 **Copy to Clipboard** (クリップボードにコピー) をクリックして情報をクリップボードにコピーし、**Export to CSV** (CSV にエクスポート) をクリックしてこの情報をカンマ区切り形式でエクスポートします。
- 6 新しいファームウェアでアップデートするサーバーを選択して、**Next** (次へ) をクリックします。画面にファームウェアダウンロードの進捗状態が表示されます。
- 7 ダウンロードの完了後、**Next** (次へ) をクリックし、次のオプションのうちいずれかを選択します。
- **Start now** (今すぐ開始) — アップデートを直ちに開始します。
 - **Start on next boot** (次の起動時に開始) — 次回のシステム起動時にアップデートを開始します。
 - **Schedule update** (アップデートの予約) — 日時を指定し、アップデートをその日にスケジュールします。
- ファームウェアアップデートプロセスを完了するには、**Finish** (終了) をクリックします。

ハードウェアインベントリの表示

Config ユーティリティを使用して、コレクション内のすべてのシステムのハードウェアインベントリの詳細を表示することができます。

ファームウェアインベントリを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 ConfigMgr コンソールで、**System Center Configuration Manager** → **Site Database** (サイトデータベース) → **Computer Management** (コンピュータの管理) → **Collections** (コレクション) → **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility** (Config ユーティリティの起動) を選択します。
- 2 **Dell Lifecycle Controller Configuration Utility** (Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ) ウィンドウで、**Hardware Inventory** (ハードウェアインベントリ) を選択します。

Dell Lifecycle Controller Configuration Utility (Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ) の右ペインに、次の詳細情報が表示されます。

- **Name** (名前) : コレクションの一部である、Dell システムの名前を表示します。
- **Hardware** (ハードウェア) : システムのハードウェアコンポーネントを表示します。例えば、メモリ、CPU、Integrated Dell Remote Access Controller カードなどです。
- **FQDD** — そのハードウェアコンポーネントの完全に修飾されたデバイスの記述を表示します。
- **Description** (説明) : そのハードウェアコンポーネントのプロパティを表示します。



メモ : Config ユーティリティがコレクションのハードウェアインベントリの詳細情報を取得中にネットワーク接続に障害が発生した場合は、ユーティリティを終了し、ネットワーク接続が回復してから再度ユーティリティを起動してください。ハードウェアインベントリの詳細情報は、自動的にリフレッシュされることはありません。

Lifecycle Controller との通信の検証

検出された Integrated Dell Remote Access Controller 搭載のシステムの資格情報を検証するには、次の手順を実行します。


- 1 ConfigMgr コンソールで、**System Center Configuration Manager** → **Site Database** (サイトデータベース) → **Computer Management** (コンピュータの管理) → **Collections** (コレクション)

- **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility** (Config ユーティリティの起動) を選択します。
- 2 Dell Lifecycle Controller Configuration Utility** (Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ) の左ペインで、**Session Credentials, Verify Communication** (セッション資格情報、通信の検証) を選択します。
 - 3 Run Check** (チェックの実行) をクリックして、検出されたシステムの iDRAC との通信を確認します。ネットワーク上で検出された iDRAC のリストと、その通信状態が表示されます。
 - 4 確認を終えたら、Export to CSV** (CSV にエクスポート) をクリックして結果を CSV 形式でエクスポートします。ローカルドライブ上の場所を指定します。
- または

Copy to Clipboard (クリップボードにコピー) をクリックして結果をクリップボードにコピーし、それをプレーンテキスト形式で保存します。

Lifecycle Controller の資格情報の変更

Integrated Dell Remote Access Controller 搭載システム上で、次の手順に従って ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration で設定された **WS-MAN** 資格情報の検証や変更を行います。

 **メモ:** Lifecycle Controller の資格情報と ConfigMgr データベースを同時に変更することをお勧めします。

Lifecycle Controller の資格情報を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 ConfigMgr コンソールで、System Center Configuration Manager** → **Site Database** (サイトデータベース) → **Computer Management** (コンピュータの管理) → **Collections** (コレクション) → **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility** (Config ユーティリティの起動) を選択します。
- 2 Dell Lifecycle Controller Configuration Utility** (Dell Lifecycle Controller 設定ユーティリティ) の左ペインで、**Session Credentials, Verify Communication** (セッション資格情報、通信の検証) を選択します。

- 3 現在のユーザー名とパスワードを入力してから、新しいユーザー名とパスワードを入力します。アクティブディレクトリで認証されたユーザー資格情報を入力することができます。
 - **Skip CA check** (CA チェックの省略) — このオプションは、デフォルトで選択されていますが、**ConfigMgr** とターゲットシステムの通信をセキュアにするには、このオプションをオフにします。このオプションをオフにすると、ターゲットシステム上の証明が信頼できる認証局 (CA) で発行されたことにチェックが付きます。ターゲットシステムが信頼できる時のみ、このオプションをオフにしてください。
 - **Skip CN check** (CN チェックの省略) — セキュリティを強化するにはこのオプションをオフにします。システム名が認証され、なりすましを防止します。コモンネーム (CN) は、ターゲットシステムのホスト名と一致する必要はありません。信頼できるターゲットシステムに限り、このオプションをオフにします。
- 4 **Update** (アップデート) をクリックします。ネットワーク上で検出された iDRAC のリストと、その通信状態が表示されます。

ユーザー名とパスワード資格情報を変更、およびその変更を示すために、一連の **WS-MAN** コマンドがコレクション内の **Integrated Dell Remote Access Controller** 搭載システムすべてに送信されます。
- 5 更新を終えたら、**Export to CSV** (CSV にエクスポート) をクリックして結果を CSV 形式でエクスポートします。ローカルドライブ上の場所を指定します。

または

Copy to Clipboard (クリップボードにコピー) をクリックして結果をクリップボードにコピーし、それをプレーンテキスト形式で保存します。

ConfigMgr データベースの Lifecycle Controller の資格情報の変更

ConfigMgr データベースの資格情報を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 ConfigMgr コンソールで、**System Center Configuration Manager** → **Site Database** (サイトデータベース) → **Site Management** (サイト管理) → <サイトサーバー名> → **Site Settings** (サイト設定) → **Component Configuration** (コンポーネントの設定) と選択します。
- 2 **Component Configuration** (コンポーネントの設定) ウィンドウで、**Out of Band Management** (帯域外管理) を右クリックして **Properties** (プロパティ) を選択します。 **Out of Band Management Properties** (帯域外管理のプロパティ) ウィンドウが表示されます。
- 3 **Dell Lifecycle Controller** タブをクリックします。

- 4 **Local User Account on Lifecycle Controllers** (Lifecycle Controller 上のローカルユーザーアカウント) の下で **Modify** (変更) をクリックします。
- 5 **New Account Information** (新しいアカウント情報) ウィンドウで、新しいユーザー名と新しいパスワードを入力します。新しいパスワードを確認して **OK** をクリックします。

これで ConfigMgr データベースの新しいユーザー名とパスワードの資格情報を更新できました。

コレクションの Lifecycle Controller ログの表示とエクスポート

コレクションの Lifecycle Controller ログを読み取り可能な形式で表示し、ログを Unified Naming Convention (UNC) または Common Internet File System (CIFS) 共有内に .CSV ファイル形式で保存またはエクスポートできます。

コレクションの Lifecycle Controller ログを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 ConfigMgr コンソールで、**Computer Management Collections** (コンピュータの管理コレクション) → **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility** (Config ユーティリティの起動) を選択します。
- 2 **View Lifecycle Controller Logs** (Lifecycle Controller ログの表示) オプションを選択します。

コレクションのログファイルの表示およびエクスポートの手順は、単体システムのログファイルの表示とエクスポートに似ています。

Lifecycle Controller ログの表示で説明されているように、**手順 2** から **手順 6** に従ってください。

画面は、コレクションの各システムにつき、デフォルトで最新 **100** のログを表示します。例えばコレクションに **10** システムある場合、画面には **1000** ログファイルが表示されます。



メモ : Display (表示) ドロップダウンリストの数字は、常にそのコレクションの合計数です。例えば、コレクションに **10** システムある場合、ドロップダウンリストには **1000**、**2500**、**5000**、およびすべてが表示されます。

コレクションのプラットフォーム復元

Config ユーティリティのこのオプションを使って、次のタスクを実行することができます。

- コレクション内のシステムプロファイルのエクスポート。詳細については、[コレクション内のシステムプロファイルのインポート](#)を参照してください。
- コレクション内のシステムプロファイルのインポート。詳細については、[コレクション内のシステムプロファイルのインポート](#)を参照してください。
- コレクションのプロファイル管理。
- コレクションの部品交換プロパティの設定。詳細については、[コレクションの部品交換プロパティの設定](#)を参照してください。

コレクション内のシステムプロファイルのインポート

このオプションを使って、コレクション内のすべてのシステムのシステム設定をバックアップすることができます。

コレクションの **Platform Restore** (プラットフォームの復元) 画面を起動するには次の手順を実行します。

- 1 ConfigMgr コンソールで、**ManagementCollections** (コンピュータの管理コレクション) → **All Dell Lifecycle Controller Servers** (すべての Dell Lifecycle Controller サーバー) を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller** → **Launch Config Utility** (Config ユーティリティの起動) を選択します。
- 2 **Platform Restore** (プラットフォームの復元) オプションを選択します。
コレクションのシステム設定をバックアップする手順は、単体システムのシステム設定をバックアップする手順と似ています。
- 3 [システムプロファイルのエクスポート](#)で説明されているように、[手順 2](#) から [手順 6](#) に従ってください。

コレクションのバックアップファイルの作成時には、各システムのバックアップファイルは指定したプレフィックスの後にシステムのサービスタグが付く形で作成されます。これは、復元プロセスを容易にするため、作成されたバックアップファイルを管理するためのものです。

コレクション内のシステムプロファイルのインポート

作成したシステムプロファイル / バックアップファイルをインポートできます。このオプションは、コレクションのシステムのバックアップイメージ / プロファイルを作成したときのみ適用できます。

コレクションの **Platform Restore**（プラットフォームの復元）画面を起動するには次の手順を実行します。

- 1 **ConfigMgr** コンソールで、**ManagementCollections**（コンピュータの管理コレクション）→ **All Dell Lifecycle Controller Servers**（すべての Dell Lifecycle Controller サーバー）を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller**→ **Launch Config Utility**（Config ユーティリティの起動）を選択します。
- 2 **Platform Restore**（プラットフォームの復元）オプションを選択します。
コレクションのバックアップファイルのインポート手順は、単体システムのバックアップファイルのインポート手順と似ています。
- 3 **システムプロファイルのインポート**で説明されているように、**手順 2** から**手順 6** に従ってください。
バックアップファイルが存在するシステムのリストがグリッドに表示されます。
- 4 バックアップファイルをインポートしたいシステムを選択して、**Next**（次へ）をクリックします。



メモ： どのシステムのネットワーク共有ロケーションにも使用できるバックアップファイルがない場合、システムは **バックアップファイル** 列に **No** と表示された状態でグリッドに表示され、チェックボックスは無効になります。

タスクが **Task Viewer** に送信されます。**Task Viewer** を起動して、タスクのステータスを表示することができます。

コレクションの部品交換プロパティの設定

システムのコレクションに部品交換プロパティを設定する手順は、単体システムにそのプロパティを設定する手順と似ています。ただし、システムのコレクションに有効なライセンスのチェックは、その他のプロパティの設定を完了してタスクを送信した後でのみ実行されます。

コレクションの **Platform Restore**（プラットフォームの復元）画面を起動するには次の手順を実行します。

- 1 **ConfigMgr** コンソールで、**ManagementCollections**（コンピュータの管理コレクション）→ **All Dell Lifecycle Controller Servers**（すべての Dell Lifecycle Controller サーバー）を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller**→ **Launch Config Utility**（Config ユーティリティの起動）を選択します。
- 2 **Platform Restore**（プラットフォームの復元）オプションを選択します。

部品交換プロパティの設定の詳細については、**システムの部品交換プロパティの設定**を参照してください。

NIC/CNA プロファイルのコレクション内システムとの比較

この機能は、NIC/CNA プロファイルがシステムにどのように適用されているかの比較レポートを生成し、ターゲットシステムとの不一致のすべてを特定します。

比較レポートを生成するには、次の手順を実行します。

- 1 **ConfigMgr** コンソールで、**ManagementCollections**（コンピュータの管理コレクション）→ **All Dell Lifecycle Controller Servers**（すべての Dell Lifecycle Controller サーバー）を右クリックし、**Dell Lifecycle Controller**→ **Launch Config Utility**（Config ユーティリティの起動）を選択します。

- 2 **Network Adapter Comparison Report**（ネットワークアダプタ比較レポート）オプションを選択します。

- 3 **Network Adapter Comparison Report**（ネットワークアダプタ比較レポート）画面で、**Browse**（参照）をクリックし、コレクションに適用された NIC/CNA プロファイルファイルを選択します。

プログレスバーによって、ターゲットシステムがスキャンされ、比較レポートが生成中であることが示されます。

- 4 比較レポートの生成後は、次の色が表示されます。

- 白色 — 適用されたプロファイルとターゲットシステムのプロファイルが一致していることを示します。
- 赤色 — プロファイルをターゲットシステムに適用したときに不一致があったことを示します。
- 灰色 — 適用されたプロファイルが設定されていなかったか、ターゲットシステムで属性が欠落していたことを示します。

次の詳細も表示されます。

- ターゲットシステム — プロファイルの比較対象となるターゲットシステムの名前。
 - ターゲットアダプタ — ターゲットシステムに存在するアダプタのタイプ。ターゲットシステムには複数のアダプタが存在する場合があります。
 - 適用された設定 — ターゲットシステムに適用された設定。
- 5 比較レポートで任意の記録を選択し、**View Details**（詳細の表示）をクリックして **Port Comparison**（ポートの比較）詳細を表示します。システムのポートの詳細が表示されます。色分けは、**Comparison Report**（比較レポート）画面と似ています。手順 4 を参照してください。

6 ポートを選択して **View Details**（詳細の表示）をクリックし、**Personality Comparison**（パーソナリティ比較）詳細を表示します。次の詳細が表示されます。

- **Partition**（パーティション）— レポートのパーティション番号
- **Personality**（パーソナリティ）— ターゲットシステムのパーティションに当初存在していたパーソナリティ
- **Personality Applied**（適用されたパーソナリティ）— NIC/CNA プロファイルからそのパーティションに適用されたパーソナリティ
- **Min. Bandwidth**（最小帯域幅）— パーティションの当初の最小帯域幅
- **Min. Bandwidth Applied**（適用された最小帯域幅）— パーティションに適用された最小帯域幅
- **Max. Bandwidth**（最大帯域幅）— パーティションの当初の最大帯域幅
- **Max. Bandwidth Applied**（最大帯域幅）— パーティションに適用された最大帯域幅

色分けは、**Comparison Report**（比較レポート）画面と似ています。詳細については、[手順 4](#) を参照してください。

7 任意のパーティションを選択して、**View Port Details**（ポート詳細の表示）をクリックします。ポート詳細画面に NIC と iSCSI 属性詳細が表示されます。次の詳細が表示されます。

- **Attribute**（属性）— NIC または iSCSI 属性のリスト
- **System Value**（システム値）— システムに当初存在していた属性値
- **Value Applied**（適用された値）— プロファイルから適用された属性値

サーバーのインポートユーティリティの使用

本項は、サーバーのインポートユーティリティを使用して実行できるさまざまなアクティビティについて説明します。このユーティリティは、Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration をインストールするときにインストールされます。ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration のインストールに関する詳細は、『インストールガイド』を参照してください。

サーバーのインポートユーティリティでは、次の操作が可能です。

- ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration で自動検出されないが、すでに ConfigMgr 環境の一部である Dell サーバーをインポートします。インポート後は、これらサーバーはすべての **Dell Lifecycle Controller Servers** → **Dell** インポート済みサーバー に表示され、ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration 機能を使ってさまざまな操作を行うことができます。詳細については、[Dell サーバーのインポート](#)を参照してください。
- **.CSV** 形式で保存された外部ファイルから、コレクション内のシステムにシステム変数をインポートします。これらの変数は、オペレーティングシステムをサーバーに導入するためのタスクシーケンスの作成時に使用されます。詳細については、[システム変数のインポート](#)を参照してください。

Dell サーバーのインポート

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration で自動検出されない Dell サーバーをインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 ConfigMgr コンソールで、オペレーティングシステム導入 → **Computer Associates** と移動します。
- 2 コンピュータの関連付けを右クリックし、メニューから **Dell** サーバーのインポート を選択します。
- 3 Dell サーバーのインポート画面で、**Dell** サーバーのインポート オプションを選択します。
- 4 **iDRAC IP アドレス範囲の指定** を選択し、IP アドレス範囲を提供します。これは、インポートするサーバーの **Integrated Dell Remote Access Controller IP アドレス範囲**です。

コンマまたは新しい行で区切られたファイルから **iDRAC IP** アドレスを指定する を選択することもできます。参照 をクリックして、**.CSV** 形式でファイルを保存したロケーションに移動します。

.CSV ファイルで、**IP** アドレスを次の形式のうちいずれかでリストします。

- 区切り記号としてコンマを使い、**IP** アドレスを区切る。例えば、次のようになります。172.16.2.5,172.16.2.38,172.16.1.1。
- **IP** アドレスを個別の行に含める。例えば、次のとおりです。

新しい行 : 172.16.1.1

新しい行 : 72.16.1.5

新しい行 : 172.16.1.45

- 5 次へ をクリックします。

Integrated Dell Remote Access Controller 認証プロセスは、**ConfigMgr** 用 **Dell Lifecycle Controller Integration** のインストール時に、指定した **Integrated Dell Remote Access Controller** の各 **IP** アドレスに対して入力した **Integrated Dell Remote Access Controller** の資格情報を検証します。グリッドは、**IP** アドレス、サーバー名、および認証ステータスを表示します。

アクティブディレクトリで認証されたユーザー資格情報を入力することができます。

指定された **Integrated Dell Remote Access Controller** ユーザーが、イポートしたいサーバーのどの **Integrated Dell Remote Access Controller** にも存在しない場合、ステータスが **認証に失敗** として表示され、そのサーバーはインポートすることはできません。

- 6 名前を付けて保存 をクリックして、レポートを **.CSV** ファイルとして任意のロケーションに保存します。
- 7 次へ をクリックして、インポートするサーバーを選択します。デフォルトで、認証ステータスが **成功** となっているすべてのシステムが選択されます。
- 8 インポートされるサーバーが表示されるターゲットコレクションを指定して、次へ をクリックします。

画面上にプログレスバーが表示され、サーバーのインポートプロセスの進行状態を示し、グリッドはインポートプロセスのステータスを表示します。サーバーのインポート中にエラーが発生すると、**失敗** のステータスが表示されます。

- 9 名前を付けて保存 をクリックして、レポートを **.CSV** ファイルとして任意のロケーションに保存します。
- 10 インポートプロセスが完了したら、閉じる をクリックしてユーティリティを終了します。

システム変数のインポート

.CSV 形式で保存された外部ファイルからシステム変数をインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 **ConfigMgr** コンソールで、オペレーティングシステム導入 → **Computer Associates** と移動します。
- 2 コンピュータの関連付け を右クリックし、メニューから **Dell** サーバーのインポート を選択します。
- 3 **Dell** サーバーのインポート画面で、システム変数のインポート オプションを選択します。
- 4 参照をクリックして、変数を含む **.CSV** ファイルを選択します。

ファイル中の変数は、次の形式で定義される必要があります。

<システム名>,<変数 1 名>=<変数 1 値>,<変数 2 名>=<変数 2 値>

例えば、次のようになります。

<System Name1> ,InstallOSVer=Win2K3 ,CountDisks=5

<System Name2> ,InstallOSVer=Win2K8 ,CountDisks=4

<System Name3> ,CountDisks=4 ,RAIDController=H700

- 5 次へ をクリックします。画面は、すでにシステムに存在する変数値と **.CSV** ファイルに存在する変数値の比較レポートを表示します。次の詳細が表示されます。
 - **Name** — システムの名前。
 - **Variable Name** — 変数名。
 - **Value in the .CSV file** — .CSV ファイル内の値。変数がファイルにない場合、この列には **NA** という値が表示されます。
 - **Value in the System** — システムにある変数の値。変数がシステムにない場合、この列には **NA** という値が表示されます。
 - **Action** — この変数に対して行われるアクション。このアクションは、常に **.CSV** ファイルにある変数および値を優先します。

アクション	説明
ADD	変数をターゲットシステムに追加します。変数がファイルに存在しており、システムには存在していないことを示します。
DELETE	変数をターゲットシステムから削除します。変数がファイルに存在しておらず、システムには存在することを示します。
UPDATE	ターゲットシステムの変数を .CSV ファイルの値でアップデートします。システムの変数をファイルの変数で置き換えることを示します。
NONE	アクションは行われません。
NA	該当なし

6 インポートしたい変数を選択します。

デフォルトで、グリッド上の **ADD** と **UPDATE** アクションの記録が選択されます。**DELETE** アクションの記録は選択されません。システムから削除したい場合は、ユーザーが記録を選択する必要があります。

グリッド上の記録は、システム名でフィルタすることもできます。

7 次へ をクリックします。

画面上にプログレスバーが表示され、変数のインポートプロセスの進行状態を示し、グリッドはインポートプロセスのステータスを表示します。変数のインポート中にエラーが発生すると、エラー のステータスが表示されます。


8 名前を付けて保存 をクリックして、レポートを .CSV ファイルとして任意のロケーションに保存します。

9 インポートプロセスが完了したら、閉じる をクリックしてユーティリティを終了します。

System Viewer ユーティリティの使用

本章は、**System Viewer** ユーティリティで実行できる操作について説明します。

System Viewer ユーティリティは、次のような用途に使用できます。

- ハードウェアの設定を表示、編集する。詳細については、[ハードウェア設定の表示と編集](#)を参照してください。
 - RAID の設定を表示、編集する。詳細については、[RAID の表示と設定](#)を参照してください。
 - お使いのシステムの **Integrated Dell Remote Access Controller** 設定プロファイルを作成、編集する。詳細については、[システムの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの設定](#)を参照してください。
 - NIC や CNA などのネットワークアダプタの設定を作成し、プロファイルに保存する。詳細については、[システムの NIC および CNA の設定](#)を参照してください。
 - 現在のファームウェアインベントリの表示、ベースラインとの比較、およびファームウェアのアップデートを行う。詳細については、[ファームウェアインベントリの比較とアップデート](#)を参照してください。
 - ハードウェア設定プロファイルを比較する。詳細については、[ハードウェア設定プロファイルの比較](#)を参照してください。
 - Lifecycle Controller ログの表示とエクスポートを行う。詳細については、[Lifecycle Controller ログの表示](#)を参照してください。
 - システムのハードウェアインベントリを表示する。詳細については、[システムのハードウェアインベントリの表示](#)を参照してください。
-  **メモ**：直接編集することができるのはハードウェア設定および RAID 設定のプロファイルだけです。システム構成を直接編集することはできません。
- 次を含む、プラットフォームの復元に関する作業を実行する。
 - システムプロファイルの外部ロケーションへのエクスポート
 - 保存されたシステムプロファイルの外部ロケーションからのインポート
 - システムの部品交換プロパティの設定詳細については、[システムのプラットフォームの復元](#)を参照してください。

ハードウェア設定の表示と編集

この機能を使って、システムまたはシステム・コレクションの現在のハードウェア設定を表示し、編集することができます。またそれらをプロファイルとして保存できます。

デフォルトでは、**System Viewer** ユーティリティは **Hardware Configuration**（ハードウェア設定）画面を表示します。新しいプロファイルを作成するには、**Create New Profile**（新規プロファイルの作成）を選択します。既存のプロファイルを編集するには、**Edit an Existing Profile**（既存のプロファイルの編集）を選択します。**BIOS Attributes**（BIOS 属性）タブには、システムの BIOS 属性と現在の設定が表示されます。**Boot Sequence**（起動順序）タブには、システムの起動順序の情報が表示されます。



メモ： 起動順序を複数のターゲットシステムに適用する場合は、それらのターゲットシステムの起動デバイスが、プロファイルに表示されている起動デバイスと同じタイプで、同数かそれより少ない場合に限り有効になります。

新規プロファイルの作成

新しいプロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **Hardware Configuration**（ハードウェア設定）画面で、**Create a New Profile**（新規プロファイルの作成）を選択し、**Next**（次へ）をクリックします。
- 2 **BIOS Attributes**（BIOS 属性）タブには、システムの BIOS 属性と現在の設定が表示されます。**Boot Sequence**（起動順序）タブに、システムの起動順序の情報が表示されます。
- 3 **BIOS Attributes**（BIOS 属性）で、各属性のチェックボックスのオンオフを選択することにより、プロファイルに追加する属性を選択します。すべてを選択 にチェックを入れると、リストされているすべての属性が選択されます。



メモ： プロファイル内の BIOS 属性をすべて未チェックのままにすることも可能です。プロファイル内で BIOS 属性を一つも選択しなかった場合、そのプロファイルをインポートすると、起動順序の情報のみがインポートされます。

- 4 **Save As Profile**（プロファイルとして保存）をクリックすると、そのプロファイルを XML ファイルとして保存します。

既存のプロファイルの編集

既存のプロファイルを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 **Hardware Configuration**（ハードウェア設定）画面で、**Edit an Existing Profile**（既存のプロファイルの編集）を選択し、**Browse**（参照）をクリックしてプロファイルを参照します。
- 2 編集するプロファイルを選択し、**Next**（次へ）をクリックします。

- 3 **BIOS Attributes** (BIOS 属性) タブに、選択したプロファイルの BIOS 属性が表示されます。編集する属性を選択し、**Edit Attribute** (属性の編集) をクリックします。
- 4 **Custom Attribute Editor** (カスタム属性エディタ) で、**Attribute Name** (属性名) フィールドにすべての属性のドロップダウンリストが表示されます。編集する属性を選択し、必要な変更を行います。
- 5 **OK** をクリックして変更内容を保存し、**Custom Attribute Editor** (カスタム属性エディタ) を終了します。



メモ：行った変更をリセットするには、**Reset** (リセット) をクリックします。

新しい属性の追加

新しい属性を追加するには、次の手順を実行します。

- 1 **Hardware Configuration** (ハードウェア設定) 画面で、**Create a New Profile** (新規プロファイルの作成) または **Edit an Existing Profile** (既存のプロファイルの編集) を選択し、**Browse** (参照) をクリックしてプロファイルを参照します。
- 2 **BIOS Attributes** (BIOS 属性タブ) で **Add Attribute** (属性の追加) をクリックします。
- 3 **Custom Attribute Editor** (カスタム属性エディタ) で、**Attribute Name** (属性名) フィールドに属性名を入力します。このフィールドへの値の入力は必須です。
- 4 追加する属性のタイプを、**Attribute Type** (属性タイプ) ドロップダウンリストから選択します。属性には、次の 3 種類のタイプがあります。
 - 列挙型属性 — 複数の値によるコンボボックスを表示します。少なくとも 1 つの値を選択するようにしてください。
 - テキスト型属性 — テキスト値を持つフィールドを表示します。このフィールドは、空欄のままにすることができます。
 - 数値型属性 — 整数値を持つフィールドを表示します。このフィールドは空欄のままにすることはできません。
- 5 選択した属性のタイプに従って、属性の値を入力します。ここでは、選択されたタイプが 列挙型属性 であると仮定します。
 - 値を追加するには、列挙する属性値を **Possible Value** (可能な値) フィールドに入力して、**Add** (追加) をクリックします。
 - 属性の値を更新するには、更新したい値を選択し、**Possible Value** (可能な値) フィールドで必要な変更を行った後、**Update** (更新) をクリックします。

- 値を削除するには、削除する値を選択して **Delete**（削除）をクリックします。確認を求めるダイアログボックスが表示されます。**Yes**（はい）をクリックすると、その値が削除されます。
- 6 **OK** をクリックして **Custom Attribute Editor**（カスタム属性エディタ）を終了し、**BIOS Attributes**（BIOS 属性）タブに戻ります。

既存の BIOS 属性の編集

既存の BIOS 属性を編集するには、[既存のプロファイルの編集](#) の手順 2 から手順 5 を参照してください。

BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの順序の変更

BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの順序を変更するには、次の手順を行ってください。

- 1 **Hardware Configuration**（ハードウェア設定）画面で、**Create a New Profile**（新規プロファイルの作成）または **Edit an Existing Profile**（既存のプロファイルの編集）を選択し、**Browse**（参照）をクリックしてプロファイルを参照します。
- 2 **Boot Sequence**（起動順序）タブをクリックします。現在の BIOS 起動順序およびハードディスクドライブの順序が表示されます。
- 3 **Move Up**（上へ移動）および **Move Down**（下へ移動）ボタンを使用して、BIOS 起動順序またはハードディスクドライブの順序を変更します。
- 4 **OK** をクリックして、変更を保存します。



メモ：行った変更をリセットするには、**Reset**（リセット）をクリックします。

RAID の表示と設定

この機能を使用すると、サーバーの RAID の設定を表示し、設定することができます。

RAID を設定するには

- 1 **System Viewer** ユーティリティで、**RAID Configuration**（RAID 設定）をクリックします。RAID 設定画面に、お使いのシステムの RAID 情報（仮想ディスクの数、コントローラ ID、RAID レベル、物理ディスクなど）が表示されます。
- 2 **Create RAID Profile**（RAID プロファイルを作成）をクリックし、**Array Builder** を使用して新しい RAID 設定プロファイルを作成します。Array Builder の使用方法に関する詳細については、[Array Builder の使用](#) を参照してください。

システムの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの設定


この機能は、Integrated Dell Remote Access Controller の設定を定義し、それを Integrated Dell Remote Access Controller 設定プロファイルとして保存して、オペレーティングシステムを導入する際のワークフローの一環としてコレクションに適用することを可能とします。

システムの Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルは、**System Viewer** ユーティリティで作成または編集することができます。

Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの作成

Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 System Viewer** ユーティリティで、**iDRAC Configuration** (iDRAC 設定) をクリックします。Integrated Dell Remote Access Controller 設定オプションが表示されます。
- 2 Create a New Profile** (新規プロファイルの作成) を選択して、**Next** (次へ) をクリックします。
システムの Integrated Dell Remote Access Controller 設定が取得され、表示されます。
- 3 Network Configuration** (ネットワークの設定) タブをクリックします。
- 4** ドロップダウンリストから設定する属性を選択します。設定できる属性は次のとおりです。
 - LAN 設定
 - LAN 詳細設定
 - 共通の IP 設定
 - IPv4 設定

 **メモ**：上記属性の設定可能な各種パラメータに関する詳細は、support.dell.com/manuals にある『Dell Lifecycle Controller Unified Server Configurator/Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled パーバージョン 1.5 ユーザーズガイド』を参照してください。
- 5 Users** (ユーザー) タブをクリックします。グリッドがシステムから Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーのリストを取得し、表示します。

- 6 ユーザーアカウントを追加、または既存のユーザーアカウントを編集することができます。Integrated Dell Remote Access Controller には 16 のユーザーがあり、そのうち 15 について設定できます。
 - 新規のユーザーアカウントを追加するには、設定されていないユーザーアカウントを選択します。
 - ユーザーアカウントを編集するには、グリッドからアカウントを選択し、**Edit**（編集）をクリックするか、ユーザーアカウントをダブルクリックします。

Edit User（ユーザーの編集）画面が表示されます。



メモ：Dell Lifecycle Controller Integration が、システムの Integrated Dell Remote Access Controller にアクセスするために使用するユーザーアカウントは編集できません。

- 7 次の詳細を指定します。
 - **General Details**（一般詳細）— ユーザー名とパスワードを含みます。ユーザーアカウントを作成または編集する時は、パスワードを指定する必要があります。
 - **IPMI LAN user Privilege granted**（付与される IPMI LAN ユーザー権限）— IPMI LAN ドロップダウンリストからユーザータイプを選択して、ユーザー権限を付与します。
 - **Other Privilege**（その他の権限）— ドロップダウンリストから Integrated Dell Remote Access Controller グループを選択し、グループに割り当てる権限を選択します。

権限に関する詳細は、support.dell.com/manuals で『Dell Lifecycle Controller Unified Server Configurator/Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled バージョン 1.5 ユーザーズガイド』を参照してください。
- 8 **OK** をクリックして、ユーザーアカウントの設定を保存し、**Users**（ユーザー）タブに戻ります。
- 9 **Save As Profile**（プロファイルとして保存）をクリックして、Integrated Dell Remote Access Controller 設定プロファイルを保存します。


Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルの編集

Integrated Dell Remote Access Controller プロファイルを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 **System Viewer** ユーティリティで、**Integrated Dell Remote Access Controller Configuration**（Integrated Dell Remote Access Controller 設定）をクリックします。Integrated Dell Remote Access Controller 設定オプションが表示されます。

- 2 **Edit an Existing Profile** (既存プロファイルの編集) を選択します。
- 3 **Browse** (参照) をクリックして **Integrated Dell Remote Access Controller** 設定プロファイルを保存したロケーションに移動し、**Next** (次へ) をクリックします。

保存したプロファイルの **Integrated Dell Remote Access Controller** 設定が取得され、表示されます。
- 4 **Network Configuration** (ネットワークの設定) タブで、編集する属性を選択します。

 **メモ**: 上記属性の設定可能な各種パラメータに関する詳細は、support.dell.com/manuals にある『Dell Lifecycle Controller Unified Server Configurator/Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled /バージョン 1.5 ユーザーズガイド』を参照してください。
- 5 **Users** (ユーザー) タブをクリックします。グリッドが既存プロファイルから **Integrated Dell Remote Access Controller** ユーザーのリストを取得し、表示します。
- 6 ユーザーアカウントを追加、または既存のユーザーアカウントを編集することができます。詳細については、[Integrated Dell Remote Access Controller](#) プロファイルの作成の [手順 6](#) と [手順 7](#) を参照してください。
- 7 **Save As Profile** (プロファイルとして保存) をクリックして、編集した **Integrated Dell Remote Access Controller** 設定プロファイルを保存します。

システムの NIC および CNA の設定

この機能では、システム内にある特定のネットワークインタフェースカード (NIC) または統合ネットワークアダプタ (CNA) の各種属性を設定し、プロファイルに保存することができます。システムの NIC または CNA プロファイルの作成は可能ですが、プロファイルを適用できるのはコレクションのみです。この機能は、コレクションの NIC パーティションを有効化します。

各 NIC タイプは、それぞれテンプレートに関連付けられています。このテンプレートには特定のインスタンス情報は含まれておらず、特定のシステムに依存しません。例えば、**DualPort-QuadPartition-NIC** テンプレートでは、CNA の 8 つのパーティションを様々な役割に設定することができます。

Lifecycle Controller 対応の NIC の情報については、support.dell.com/manuals で『Dell Lifecycle Controller Unified Server Configurator/Unified Server Configurator-Lifecycle Controller Enabled ユーザーズガイド』を参照してください。

Dell Lifecycle Controller Integration 対応の CNA の情報については、support.dell.com/manuals で『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Lifecycle Controller Integration パーシジョン 1.3 README』を参照してください。

NIC/CNA プロファイルの作成

NIC/CNA プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 System Viewer** ユーティリティで、**Network Adapter Configuration** (ネットワークアダプタ設定) をクリックします。新規プロファイルの作成、既存プロファイルの編集、またはコレクションをスキャンしてアダプタを検出するオプションが表示されます。
- 2 Create new profile** (新規プロファイルの作成) を選択します。**Network Adapter Configuration** (ネットワークアダプタの設定) 画面が表示されます。
- 3 Add** (追加) をクリックしてアダプタを追加します。
- 4 Add Adapter** (アダプタの追加) ダイアログボックスで、
 - a Adapter type** (アダプタタイプ) をドロップダウンメニューから選択します。
 - b** アダプタのロケーションを選択し、スロット番号を指定します。
 - c OK** をクリックします。これでそのアダプタが **Network Adapter Configuration** (ネットワークアダプタ設定) 画面に追加されました。
- プロファイルからアダプタのいずれかを削除したい場合は、そのアダプタを選択して **Remove** (削除) をクリックします。
- 設定するには、アダプタを選択して **Configure** (設定) をクリックします。アダプタの設定の詳細については、[アダプタの設定](#)を参照してください。
- アダプタの設定が終了したら、**Save as profile** (プロファイルとして保存) をクリックして **NIC** プロファイルを保存します。
プロファイルのどのアダプタも設定しなかった場合は、次のメッセージが表示されます。No adapter is configured. Please configure the adapters before saving the profile. (アダプタの設定がまだ行われていません。プロファイルの保存前にアダプタを設定してください。)
OK をクリックして、アダプタのどれかを設定してからプロファイルを保存します。
全部のアダプタではなく、いくつかのアダプタを設定した場合は、次のメッセージが表示されます。You have not configured all adapters and settings. Are you sure you want to save the profile?

(全アダプタの設定が行われていません。プロファイルを保存してよろしいですか?)


OK をクリックしてプロファイルを保存するか、**Cancel** (キャンセル) をクリックしてすべてのアダプタの設定を行います。

コレクションのスキャン

コレクションをスキャンして、設定されたアダプタのを検出したり、編集のために NIC または CNA プロファイルのリストを表示することができます。

コレクションをスキャンするには、次の手順を実行します。

- 1 **System Viewer** ユーティリティで、**Network Adapter Configuration** (ネットワークアダプタ設定) をクリックします。
- 2 **Scan collection to identify adapters** (コレクションをスキャンしてアダプタを検出) を選択し、**Next** (次へ) をクリックします。


 **メモ**：ユーティリティがコレクションのスキャンを行う前に、プロセスが長時間かかる可能性があるという警告が表示されます。キャンセル をクリックするとスキャンプロセスは中止され、アダプタの検出にコレクションをスキャンする オプションのチェックがオフになります。

- 3 ユーティリティはコレクションをスキャンし、プログレスバーがタスクの進捗を示します。タスクが終了したら、**Next** (次へ) をクリックします。
- 4 **Network Adapter Configuration** (ネットワークアダプタの設定) 画面にコレクションのアダプタが表示されます。
- 5 設定するアダプタを選択し、**Configure** (設定) をクリックします。詳細については、[アダプタの設定](#)を参照してください。
- 6 プロファイルからアダプタのいずれかを削除したい場合は、そのアダプタを選択して **Remove** (削除) をクリックします。
- 7 **Add** (追加) をクリックしてプロファイルにアダプタを追加することもできます。詳細については、[NIC/CNA プロファイルの作成の手順 4](#) を参照してください。
- 8 **Save as profile** (プロファイルとして保存) をクリックして、変更した NIC プロファイルを保存します。

アダプタの設定

アダプタを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 ネットワークアダプタの設定画面でアダプタを選択し、設定をクリックします。**Adapter Configuration** (アダプタの設定) ダイアログボックスが表示されます。
- 2 次のオプションのいずれかを選択します。

- **Configure adapter settings** (アダプタの設定) — 設定を行います。
 - **Copy settings from adapter** (設定をアダプタからコピー) — すでに設定済みのアダプタから設定をコピーします。
- 3 **Configure** (設定) をクリックすると、**Configure Adapter** (アダプタの設定) ダイアログボックスが表示されます。設定するポートを選択し、**Configure** (設定) をクリックします。
- 4 次のオプションのいずれかを選択します。
- **Configure port settings** (ポートの設定) — ポートの設定を行います。ポートの設定を自分で行う場合は、次の手順に進みます。
 - **Copy settings from port** (設定をポートからコピー) — すでに設定済みのポートから設定をコピーします。ポート設定をコピーする場合は、[手順 7](#) に進みます。
- 5 ポートのパーティションごとにパーソナリティを選択し、パーソナリティごとに帯域を入力し、設定を行う必要があります。1つのポートには最大4つまでのパーティションを設けることができ、パーティションごとに1つのパーソナリティが割り当てられます。
- Personalities and Settings** (パーソナリティと設定) で、各パーティションに対してパーソナリティを選択し、最小および最大帯域を設定します。次のオプションのいずれかを選択できます。
- NIC
 - iSCSI
 - FCoE
-  **メモ**：パーソナリティは CNA のみに選択でき、NIC には選択できません。
- 6 NIC と iSCSI パラメータを設定するには、**Port Settings** (ポート設定) をクリックします。詳細については、[NIC と iSCSI パラメータの設定](#)を参照してください。
- 7 **OK** をクリックして設定を保存します。

NIC と iSCSI パラメータの設定

ポートの設定 画面で、NIC と iSCSI パラメータを設定することができます。

NIC と iSCSI パラメータを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 **Port Settings** (ポート設定) 画面の **NIC** タブで、次のパラメータを指定します。
- **Select All** (すべてを選択) — NIC で利用可能なすべてのオプションをチェックするには、これを選択します。

- **Boot protocol** (起動プロトコル) — システムの起動プロトコルを選択します。これは、**PXE**、**iSCSI** または **FCoE** から選択できます。
- **Wake on LAN** — このオプションでは、LAN 全体のシステムの電源投入を行うことができます。このオプションは有効または無効に設定できます。
- **Wake on LAN link speed** (Wake on LAN リンク速度) — **Wake on LAN** リンク速度をドロップダウンリストから指定します。
- **VLAN mode** (VLAN モード) — このオプションでは、お使いのシステムが同じネットワークスイッチに属していない場合、システムを VLAN に追加することができます。このオプションは有効または無効に設定できます。
- **Link speed** (リンク速度) — ドロップダウンリストから選択して NIC リンク速度を指定します。
- **Flow Control** (フロー制御) — ドロップダウンリストから選択してデータフロー制御を指定します。
- **IP auto configuration** (IP の自動設定) — このオプションは、システムに自動的に IP アドレスを設定します。このオプションは有効または無効に設定できます。
- **SRIOV configuration** (SRIOV 設定) — このオプションでは、システムにシングルルート入出力仮想化を設定できます。このオプションは有効または無効に設定できます。

OK をクリックして設定を保存します。

2 iSCSI タブをクリックして、次のパラメータを指定します。

- **CHAP authentication** (CHAP 認証) — iSCSI ターゲットの検出におけるチャレンジ ハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) をシステムで有効化または無効化します。このオプションを有効にする場合は、すべての iSCSI イニシエータパラメータ設定画面で **CHAP ID** と **CHAP Secret** を入力する必要があります。
- **CHAP mutual authentication** (CHAP 相互認証) — iSCSI ターゲットの検出において、ネットワーク内のシステム間のネットワーク双方向 CHAP 認証を有効化または無効化します。
- **iSCSI via DHCP** (DHCP 経由の iSCSI) — DHCP 経由の iSCSI ターゲット検出を有効化または無効化します。
- **Windows Boot HBA Mode** (HBA モードでの Windows 起動) — この属性は、ホストオペレーティングシステムがソフトウェアイニシエータモードに設定されている場合は無効、HBA モード用に設定されている場合は有効化します。このオプションは、**NetXtreme** アダプタで使用します。

- **Boot to Target** (ターゲットから起動) — この属性を有効化または無効化します。このオプションを有効化すると、iSCSI 起動ホストソフトウェアは iSCSI ターゲットからの起動を試みます。
- **DHCP Vendor ID** (DHCP ベンダー ID) — このフィールドで、DHCP ベンダー ID を特定します。DHCP Offer パケットのベンダークラス ID フィールドがこのフィールドの値と一致すると、iSCSI 起動ホストソフトウェアは必要な iSCSI 起動エクステンションを検索します。**iSCSI via DHCP** (DHCP 経由の iSCSI) オプションが無効化されている場合は、この値を設定する必要はありません。
- **LUN Busy Retry Count** (LUN ビジー再試行カウント) — iSCSI ターゲット LUN がビジーの場合、iSCSI 起動イニシエータが接続を再試行する回数を設定します。

3 **OK** をクリックして設定を保存します。

NIC/CNA プロファイルの編集


NIC/CNA プロファイルを編集するには、次の手順を実行します。

- 1 **System Viewer** ユーティリティで、**Network Adapter Configuration** (ネットワークアダプタ設定) をクリックします。
- 2 **Edit an Existing Profile** (既存プロファイルの編集) を選択します。
- 3 **Browse** (参照) をクリックして、NIC プロファイルを保存したロケーションに移動します。
- 4 **.XML** ファイルとして保存されたプロファイルを選択して、**Next** (次へ) をクリックします。
Network Adapter Configuration (ネットワークアダプタの設定) 画面に、プロファイルで設定したアダプタが表示されます。
- 5 編集するアダプタを選択して、**Configure** (設定) をクリックします。アダプタの設定の詳細については、[アダプタの設定](#)を参照してください。
- 6 プロファイルからアダプタのいずれかを削除したい場合は、そのアダプタを選択して **Remove** (削除) をクリックします。
- 7 **Add** (追加) をクリックしてプロファイルにアダプタを追加することもできます。詳細については、[NIC/CNA プロファイルの作成の手順 4](#) を参照してください。
- 8 **Save as profile** (プロファイルとして保存) をクリックして、変更した NIC プロファイルを保存します。

ファームウェアインベントリの比較とアップデート

この機能により、特定のシステムの現在のファームウェアバージョンの表示、比較、およびアップデートを行うことができます。また、お使いのシステムの BIOS とファームウェアのバージョンを他のシステムや Dell FTP サイトと比較したり、デルサポートサイトからダウンロードした PDK カタログと比較したりすることができます。

システムのファームウェアインベントリの比較およびアップデートを行うには、次の手順を実行します。

- 1 **System Viewer** ユーティリティで、**Firmware Inventory, Compare, and Update** (ファームウェアのインベントリ、比較、およびアップデート) をクリックします。右側のペインに、システムコンポーネントおよびそれらの現在のファームウェアのバージョンが表示されます。
 - 2 **Export Profile** (プロファイルのエクスポート) をクリックすると、ソフトウェアのインベントリ情報が XML 形式でエクスポートされます。
 - 3 **Next** (次へ) をクリックし、次のオプションのいずれかを選択して、サーバーコレクションのファームウェアインベントリと比較するためのベースラインを指定します。
 - **Dell PDK Catalog** (Dell PDK カタログ) — ファームウェアインベントリの比較に使用する Dell PDK カタログを指定します。PDK カタログを指定するには、次の手順を実行します。
 - **Browse** (参照) をクリックし、使用するカタログを保存したロケーションに移動します。このカタログは、お使いのシステムの Dell Lifecycle Controller でアクセス可能な CIFS 共有上に保存されている必要があります。
 - このカタログを使ってファームウェアインベントリをアップデートする場合は、そのカタログが保存されている CIFS 共有にログインするための **User Name** (ユーザー名) と **Password** (パスワード) を指定します。カタログの表示やカタログとの比較のみを行う場合には、ユーザー名とパスワードを指定する必要はありません。
-  **メモ:** ファームウェアインベントリの更新を行うには、ローカルのリポジトリを指定する必要があります。
- **FTP: ftp.dell.com** — Dell FTP サイトへ接続し、システムのファームウェアインベントリの比較およびアップデートを行います。

- **Firmware Inventory Profile** (ファームウェアインベントリのプロフィール) — 保存済みの既存のプロファイルを指定し、これを使ってシステムのファームウェアインベントリの比較およびアップデートを行います。
- 4 **Next** (次へ) をクリックします。次のベースラインの詳細項目が画面に表示されます。これらの情報をお使いのコレクションのファームウェアと比較できます。
- **Component** (コンポーネント) — コンポーネント名を表示します。
 - **Version** (バージョン) — コンポーネントのファームウェアバージョンを表示します。
 - **Baseline Version** (ベースラインバージョン) — コンポーネントのベースラインバージョンを表示します。
 - **Status** (ステータス) — ファームウェアのステータスを表示し、お使いのシステムのファームウェアが適正であるか、あるいはアップデートが必要かどうかを示します。
- 5 これらの情報は、任意のベースライン詳細項目に基づいてフィルタすることができます。利用可能なオプションに基づいてスケジュールを設定した後、**Update** (アップデート) をクリックしてお使いのシステムを最新のファームウェアでアップデートします。
- **start now** (今すぐ開始) — アップデートを開始します。
 - **start on next reboot** (次の起動時に開始) — ターゲットシステムが再起動したときに開始します。
 - **schedule update** (アップデートをスケジュール) — アップデートの日時を設定します。複数のアップデートが1時間以内に続けてスケジュールされた場合は、警告メッセージが表示されます。

ハードウェア設定プロファイルの比較

この機能では、BIOS またはシステムに適用された **Integrated Dell Remote Access Controller** 設定プロファイルの比較と報告が可能になります。

ハードウェア設定プロファイルを比較するには、次の手順を実行します。

- 1 **System Viewer** ユーティリティで、**Compare Hardware Configuration Profile** (ハードウェア設定プロファイルの比較) をクリックします。
Select Profile to Compare (比較するプロファイルの選択) で **Browse** (参照) をクリックし、以前に保存した BIOS のいずれか、また

は Integrated Dell Remote Access Controller 設定プロファイルを選択して比較します。

- 2 比較レポートが生成された後、画面には次の色が表示され、比較の状態を示します。
 - 白色 — 適用されたプロファイルとターゲットシステムのプロファイルが一致していることを示します。
 - 赤色 — プロファイルをターゲットシステムに適用したときに不一致があったことを示します。
 - 灰色 — 適用されたプロファイルが設定されていなかったか、ターゲットシステムで属性が欠落していたことを示します。
- 3 **Compare Hardware Configuration Profile** (ハードウェア設定プロファイルの比較) 画面に、次のフィールドが表示されます。
 - **Attribute Name** (属性名) — 選択されたプロファイルに応じて、BIOS または Integrated Dell Remote Access Controller 属性を一覧表示します。
 - **System Value** (システム値) — BIOS または Integrated Dell Remote Access Controller 属性の現在値を一覧表示します。該当する値が存在しない場合は、NA と表示されます。
 - **Profile Value** (プロファイル値) — プロファイル内の属性値を一覧表示します。該当する値が存在しない場合は、NA と表示されます。

Lifecycle Controller ログの表示

この機能では、Lifecycle Controller ログを読み取り可能な形式で表示し、ログを .CSV ファイルに保存またはエクスポートすることができます。Lifecycle Controller ログには、ファームウェアアップグレードの履歴、アップデートおよび設定の変更イベント、およびユーザーのコメントなどの詳細情報が含まれています。

Lifecycle Controller ログを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 **System Viewer** ユーティリティで、**View Lifecycle Controller Logs** (Lifecycle Controller ログの表示) を選択します。**View Lifecycle Controller Logs** (Lifecycle Controller ログの表示) 画面に次のフィールドが表示されます。
 - **Existing Share** (既存の共有) — ファイルを保存する UNC または CIFS 共有 を次のフォーマットで指定します。\\<IP アドレス>\<共有> ファイル名 ファイル名はデフォルトで提供され、変更できません。この情報は、これ以降の表示のため、キャッシュされます。Lifecycle

Controller ログファイルを表示する場合は毎回、空の共有を指定することをお奨めします。既存のロケーションを使う場合は、そのロケーションが空であることを確認してください。

- **Domain\User Name** (ドメイン\ユーザー名) — Lifecycle Controller が UNC または CIFS 共有にアクセスするために必要な正しいドメインとユーザー名を指定します。
- **Password** (パスワード) — 正しいパスワードを指定します。

2 **Next** (次へ) をクリックします。 **View Lifecycle Controller Logs** (Lifecycle Controller ログの表示) 画面が表示されます。

画面は、デフォルトで最新 100 個のログを表示します。表示されるログ数は、**Pause** (一時停止) をクリックする場合、または 100 個のログすべてが画面に表示された後のみ変更することができます。次の詳細が表示されま
す。

表 6-1 Lifecycle Controller ログ詳細

列	説明
ホスト名	これは、Lifecycle Controller ログを表示しているシステムのホスト名です。ホスト名はシステムのコレクションの場合にのみ表示され、単体システムの場合は表示されません。
No.	これはログの連続番号です。
カテゴリ	設定サービス、iDRAC、インベントリなどの Lifecycle Controller ログのカテゴリです。
ID	これはエラーメッセージに関連付けられた ID です。ハイパーリンクをクリックすると、エラーと推奨アクションについての詳細情報が得られます。Dell サポートサイトの support.dell.com/manuals から、定期的に最新のメッセージレジストリをダウンロードできます。詳細については、 最新のメッセージレジストリのダウンロードおよびアップデート を参照してください。 ローカルメッセージレジストリに ID がいない場合、エラーが表示されるので、Dell サポートサイトから最新のメッセージレジストリファイルをダウンロードする必要があります。
説明	Lifecycle Controller ログのメッセージ / 説明です。

表 6-1 Lifecycle Controller ログ詳細 (続き)


列	説明
タイムスタンプ	Lifecycle Controller ログ作成時の日付 / 時刻スタンプです。

表示するログファイルのデフォルト数を設定することができます。これは、グリッドで表示される最大ログ数を定義する、グローバル設定です。ログファイルのデフォルト数を設定するには、次の手順を実行します。

- a ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration をインストールしたフォルダから **DLCSysview.exe.config** または **DLCCConfigUtility.exe.config** を開きます。
- b **MAX_LC_LOGS_TO_DISPLAY** パラメータを探し、数字を指定します。

Lifecycle Controller Logs Viewer で **All** (すべて) を選択すると、指定した数のログが表示されます。

- 3 表示する記録数を指定した後、**View** (表示) をクリックします。

 **メモ**：この手順は、記録数をドロップダウンリストから選択せずに、手動で入力した場合のみ適用されます。ドロップダウンリストで数字を選択した場合、記録は自動的に表示されます。一度に表示される記録数より少ない値は指定できません。記録数を少なくして表示する場合は、システムごとに記録を並べ替えおよびフィルタするか、**System Viewer** ユーティリティ (コレクションの場合は、Config ユーティリティ) を閉じて再度開きます。

ログのロード時に、さらにロードする記録がある場合は、次のメッセージが表示されます。More records to be displayed (さらに表示する記録があります。) すべての記録がロードされると、次のメッセージが表示されます。There are no more records to be displayed (表示する記録はありません。)

- 4 システムから新しい Lifecycle Controller ログを取得するには、**Refresh** (更新) をクリックします。
- 5 多数のログをロードする場合、**Pause** (一時停止) をクリックしてログファイルのロードを一時停止できます。この段階でドロップダウンリストから数字を選択することにより、表示する記録数を変更することができます。
- 6 **Resume** (再開) をクリックし、ログのロードを再開します。
- 7 **Export to CSV** (CSVへエクスポート) をクリックして、ファイルを指定したロケーションに CSV 形式で保存します。このオプションは、グリッドに表示されたログファイルだけをエクスポートします。グリッドでデータをフィルタした場合は、このオプションではフィルタされたデータのみがエクスポートされます。

最新のメッセージレジストリのダウンロードおよびアップデート

メッセージレジストリのダウンロードおよび展開の前に、**System Viewer** ユーティリティ、**Config** ユーティリティおよび **Task Viewer** など、すべての **Dell Lifecycle Controller Integration** ユーティリティを閉じることをお勧めします。

ConfigMgr 用 **Dell Lifecycle Controller Integration** をインストールしたシステムの最新メッセージレジストリをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- 1 **support.dell.com/manuals** の Dell サポートウェブサイトに移動します。
- 2 **Software** (ソフトウェア) → **Systems Management** (システム管理) → **Dell Unified Server Configurator** および **Lifecycle Controller** を選択します。
- 3 **Lifecycle Controller Releases** (Lifecycle Controller リリース) ページで、Lifecycle Controller の最新バージョンへのリンクをクリックします。
- 4 **Lifecycle Controller** ページで、**Remote Services - One-to-many-Server Management** (リモートサービス — 1 対多サーバー管理) の **Error Messages and Troubleshooting List** (エラーメッセージとトラブルシューティングリスト) リンクをクリックします。
- 5 **English** (英語) をクリックして、**Error Messages and Troubleshooting List** (エラーメッセージとトラブルシューティングリスト) ページで **Download** (ダウンロード) リンクをクリックします。
- 6 **emsgs_en.zip** ファイルを空のフォルダに解凍します。
- 7 解凍したフォルダのすべてのファイルとフォルダを次のフォルダロケーションにコピーします。**C:\Program Files\Microsoft Configuration Manager\AdminUI\XMLStorage\Extensions\DLPlugin\emsgs_en**
- 8 メッセージレジストリをアップデートする時は、新しいファイルとフォルダを解凍してコピーし、**emsgs_en** フォルダにあるファイルとフォルダを上書きするようにしてください。

システムのハードウェアインベントリの表示

System Viewer ユーティリティを使用して、選択したシステムのハードウェアインベントリの詳細を表示することができます。

システムのハードウェアインベントリを表示するには、次の手順を実行します。

System Viewer ユーティリティで、**Hardware Inventory** (ハードウェアインベントリ) を選択します。

System Viewer ユーティリティの右側のペインに、次の詳細情報が表示されます。

- **Hardware Component** (ハードウェアコンポーネント) — ハードウェアコンポーネントの名前を表示します。
- **Properties** (プロパティ) — ハードウェアコンポーネントの属性を表示します。
- **Value** (値) — ハードウェアコンポーネントの各属性の値を表示します。

システムのプラットフォームの復元

このオプションを **System Viewer** ユーティリティで使用して、次の操作を実行することができます。

- システムプロファイルのエクスポート。詳細については、[システムプロファイルのエクスポート](#)を参照してください。
- システムプロファイルのインポート。詳細については、[システムプロファイルのインポート](#)を参照してください。
- プロファイルの管理。
- システムの部品交換プロパティの設定。詳細については、[システムの部品交換プロパティの設定](#)を参照してください。

システムファイルのエクスポートまたはインポートの前提条件

ファームウェアを次のバージョンにアップデートする必要があります。

- ブレードシステム用 **Integrated Dell Remote Access Controller** ファームウェアをバージョン **3.30** 以降へ。
- ラックおよびタワーシステム用 **Integrated Dell Remote Access Controller** ファームウェアをバージョン **1.80** 以降へ。
- **Lifecycle controller** ファームウェアをバージョン **1.5.1.0** 以降へ。

ファームウェアバージョンのアップデートの詳細については、[ファームウェアインベントリの比較とアップデート](#)を参照してください。

システムプロファイルのエクスポート

ファームウェアと設定のバックアップを作成し、**Integrated Dell Remote Access Controller vFlash** カードまたはネットワーク共有へエクスポートすることができます。この機能は、次をバックアップします。

- **BIOS**、**LOM**、およびストレージコントローラ (**RAID** レベル、仮想ディスク、およびコントローラ属性) などのハードウェアおよびファームウェアイベント。
- サービスタグ、システムタイプなどのシステム情報。

- Lifecycle Controller ファームウェアイメージ、システム設定、および Integrated Dell Remote Access Controller ファームウェアと設定。

システムプロファイルをエクスポートするには、次の手順を実行します。

- 1 **System Viewer** ユーティリティで、**Platform Restore**（プラットフォームの復元）を選択します。


ユーティリティは、システムの Lifecycle Controller 上の Dell vFlash SD カードの有効なライセンスの他、ファームウェアバージョンもチェックします。有効なライセンスが存在する場合、**Platform Restore**（プラットフォームの復元）画面が表示されます。

 **メモ**：この機能は、Lifecycle Controller バージョン 1.5 以降でのみ利用できます。

- 2 プラットフォームの復元画面で、**Export Server Profile**（サーバープロファイルのエクスポート）オプションを選択し、**Next**（次へ）をクリックします。vFlash メディアまたはロケーションを選択するオプションが表示されます。

- 3 次のオプションのいずれかを選択します。

- **vFlash media**（vFlash メディア）：Integrated Dell Remote Access Controller vFlash カードにバックアップを取るためのオプション。
- **Network share**（ネットワーク共有）：ネットワークの共有ロケーションにバックアップを取るためのオプション。このオプションを選択する場合、次の情報を指定する必要があります。
 - **Existing share**（既存の共有）：初めてバックアップを取る場合、共有ロケーションを指定します。この情報は、これ以降のバックアップのためにキャッシュされ、ドロップダウンボックスから既存のロケーションを選択できるようになります。
 - **User name**（ユーザー名）：共有ロケーションにアクセスするためのユーザー名を指定します。ユーザー名は、ドメイン\<ユーザー名>形式で指定する必要があります。この情報も、最初のバックアップ後、キャッシュされます。これ以降のバックアップで、同じ名前を使用することができます。
 - **Password**（パスワード）：共有ロケーションにアクセスするためにパスワードを入力し、確認のためにそのパスワードを再入力します。

 **メモ**：指定する共有ロケーションが書き込み可能であること、および Lifecycle Controller がバックアップファイルを保存するための十分なディスク空間があることを確認してください。


- 4 バックアップファイルのパスフレーズを入力します。これは、バックアップファイルの暗号化部分をロックするために使用されます。正常にバックアップ操作を行うためには、バックアップファイルのパスフレーズは、次に示すような特定の形式である必要があります。

- パスフレーズには、最低 8 文字が含まれること。
- パスフレーズには、少なくとも 1 つの大文字、少なくとも 1 つの小文字、少なくとも 1 つの特殊文字、少なくとも 1 つの数字の組み合わせが含まれること。

エクスポートファイルロケーションがネットワーク共有の場合、バックアップファイルにはプレフィックスを指定する必要があり、このプレフィックスは、システムまたはコレクションに固有にする必要もあります。

バックアップファイルには、システムのホスト名が付加され、次の形式で保存されます。<プレフィックス><ホスト名>。例えば指定したプレフィックスが ABC123 とし、システムのホスト名が ABCDEFG とすると、バックアップファイルは、ABC123-ABCDEFGF として保存されます。

View previous backup files（以前のバックアップファイルの表示）リンクをクリックして、以前作成したバックアップファイルのプレフィックスを表示します。

 **メモ**：以前のバックアップと同じファイル名を指定した場合、ユーティリティは既存のファイルを上書きしないよう別のファイル名を指定するためのプロンプトを表示します。システムレベルおよびコレクションレベルで、同じ共有ロケーションに同じファイル名プレフィックスを指定した場合、プロンプトなしで上書きされます。


- 5 **Next**（次へ）をクリックします。サマリ画面が表示されます。
- 6 **Finish**（完了）をクリックして、バックアッププロセスを **task viewer** に送信します。次のメッセージが表示されます。Task submission complete（タスクの送信が完了しました。）

Task Viewer を起動してタスクのステータスを表示することができます。

システムプロファイルのインポート

この機能では、システムのファームウェアおよび設定のバックアップをインポートし、バックアップの取得元と同じシステムの復元を可能にします。

この機能は、以前にシステムプロファイルのバックアップイメージを取得したことがある場合のみ使用可能です。

 **メモ**：システムのマザーボードを交換する場合、ハードウェアを同じ場所に再度取り付けるようにしてください。たとえば、NIC PCI カードは、バックアップ時に使用したものと同一 PCI スロットに取り付けます。

オプションで、現在の仮想ディスクの設定を削除して、バックアップイメージファイルから設定を復元することもできます。

システムプロファイルをインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 **System Viewer** ユーティリティで、**Platform Restore**（プラットフォームの復元）を選択します。**Platform Restore**（プラットフォームの復元）画面が表示されます。
- 2 **Platform Restore**（プラットフォームの復元）画面で、**Import Server Profile**（サーバープロファイルのインポート）オプションを選択し、**Next**（次へ）をクリックします。**vFlash** メディアまたは共有ロケーションを選択するオプションが表示されます。
- 3 次のオプションのいずれかを選択します。
 - **vFlash media**（vFlash メディア）：Integrated Dell Remote Access Controller vFlash カードからバックアップを復元するためのオプション。
 - **Network share**（Network 共有）：ネットワークの共有ロケーションからバックアップイメージを復元するためのオプション。このオプションを選択する場合、次の情報を指定する必要があります。
 - **Existing share**（既存の共有）：バックアップイメージを保存した共有ロケーションを指定します。ドロップダウンリストには、以前に、システムまたはコレクションのバックアップファイルを作成した共有のリストが含まれます。
 - **User name**（ユーザー名）：共有ロケーションにアクセスするためのユーザー名を指定します。ユーザー名は、ドメイン\<ユーザー名>形式で指定する必要があります。
 - **Password**（パスワード）：共有ロケーションにアクセスするためのパスワードを入力し、確認のためにそのパスワードを再入力します。
- 4 **Next**（次へ）をクリックします。バックアップの取得時に指定したバックアップファイルパスフレーズを入力します。

バックアップファイルの保存にネットワーク共有を使用した場合、バックアップ取得時に指定したバックアップファイルのプレフィックスを指定します。
- 5 **Next**（次へ）をクリックします。バックアップファイルをインポートする間、現在の RAID コントローラ設定を維持するか、バックアップファイルからバックアップ設定を復元するか選択できます。次のいずれかのオプションを選択します。
 - **Preserve**（維持）：既存の RAID コントローラ設定を保持します。
 - **Delete**（削除）：既存の RAID コントローラ設定を削除し、バックアップファイルから設定をインポートします。



メモ：この操作は、バックアップ中に仮想ディスクにあった内容は復元しません。例えば、オペレーティングシステムなどです。この操作では、ブランク仮想ディスクが作成され、属性が設定されるのみとなります。

- 6 **Next** (次へ) をクリックします。サマリ画面が表示されます。
- 7 **Finish** (完了) をクリックして、バックアップファイルのインポートを開始し、タスクを **Task Viewer** に送信します。
Task Viewer を起動してタスクのステータスを表示することができます。

システムの部品交換プロパティの設定

部品交換機能は、システム内で新たに交換されたコンポーネントのファームウェアまたは設定、もしくはこれら両方を元の部品に一致させるための自動アップデートを提供します。新たに交換されたコンポーネントには、元の部品と一致する PowerEdge RAID コントローラ、NIC または電源装置が含まれる場合があります。この機能は、Lifecycle Controller ではデフォルトで無効となっており、必要に応じて Dell Lifecycle Controller Integration を使って有効化することができます。また、これはライセンスされる機能で、Dell 製の vFlash SD カードを必要とします。

システムの部品交換プロパティを設定するには、**System Viewer** ユーティリティを使用します。

部品交換プロパティを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 **System Viewer** ユーティリティで、**Platform Restore** (プラットフォームの復元) を選択します。
ユーティリティは、システムの Lifecycle Controller にある Dell vFlash SD カードの有効なライセンスをチェックします。有効なライセンスが存在する場合、**Platform Restore** (プラットフォームの復元) 画面が表示されます。
- 2 **Platform Restore** (プラットフォームの復元) 画面で、**Configure Part Replacement** (部品交換の設定) オプションを選択し、**Next** (次へ) をクリックします。部品交換属性が表示されます。

3 次の表に示されるプロパティのオプションを選択します。

表 6-2 部品交換属性

プロパティ	オプション
Collect System Inventory on Start (CSIOR) (起動時のシステムインベントリの収集 (CSIOR))	<ul style="list-style-type: none">• 無効化: 交換部品のための CSIOR を無効にする場合、このオプションを選択します。• 有効化: 交換部品のための CSIOR を有効にする場合、このオプションを選択します。• 変更しない: デフォルトの設定をそのままにする場合、このオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
Part Firmware Update (部品ファームウェアアップデート)	<ul style="list-style-type: none">• 無効化: 交換部品のためのファームウェアアップデートを行いたくない場合、このオプションを選択します。• バージョンアップグレードのみ許可: 新しい部品のファームウェアバージョンが元の部品より古い場合、交換部品にファームウェアアップデートを行う場合にはこのオプションを選択します。• 交換部品のファームウェアを一致: 交換部品のファームウェアを元の部品のバージョンにアップデートを行う場合、このオプションを選択します。• 変更しない: デフォルトの設定をそのままにする場合、このオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
Part Configuration Update (部品設定のアップデート)	<ul style="list-style-type: none">• 無効化: 現在の設定を交換部品に適用しない場合は、このオプションを選択します。• 常に適用: 現在の設定を交換部品に適用する場合は、このオプションを選択します。• ファームウェアが一致する場合のみ適用: 現在のファームウェアが交換部品のファームウェアと一致する場合のみ、現在の設定を適用するためにこのオプションを選択します。• 変更しない: デフォルトの設定をそのままにする場合、このオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- 4 必要なオプションを選択した後、**Finish**（完了）をクリックします。
次のメッセージが表示されます。Task submission complete
(タスクの送信が完了しました)

タスクは **Task Viewer** に送信されました。**Task Viewer** を起動して、タスクのステータスを表示することができます。このタスクは、部品交換設定でのシステムの **Lifecycle Controller** 設定を行います。この設定は、システムのどの部品を交換したときでも有効になります。

部品交換属性をアップデートした場合、場合によってアップデートは直ちに行われません。数分待って、アップデートが設定されたか確認してください。

トラブルシューティング

IIS 用 Dell プロビジョニングウェブサービスの設定

インストール中に、Internet Information Services (IIS) 用 Dell プロビジョニングウェブサービスが自動設定されます。

この項では、IIS 用 Dell プロビジョニングウェブサービスを手動で設定する方法を説明します。

IIS 6.0 用 Dell プロビジョニングウェブサービスの設定

IIS 6.0 用 Dell プロビジョニングウェブサービスを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 **ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration** をインストールした後、**C:\Program Files\Dell\DPS\ProvisionWS** ディレクトリに移動し、フォルダ **ProvisionWS** とファイルが存在していることを確認してください。フォルダとファイルがない場合は、**ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration** をインストールし直してください。
- 2 **IIS Manager** (IIS マネージャ) で、**Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) という新しいアプリケーションプールを作成し、それをウェブサイトに割り当てます。
アプリケーションプールをプロビジョニングウェブサイトに割り当てるには、次の手順を実行します。
 - a **IIS Manager** (IIS マネージャ) で、**Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) を右クリックして、**Properties** (プロパティ) を選択します。
 - b **Home Directory** (ホームディレクトリ) タブをクリックします。
 - c **Application Pool** (アプリケーションプール) の下で、**Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) を選択します。
- 3 **IIS Manager** (IIS マネージャ) で、**Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) を右クリックして、**Properties** (プロパティ) を選択し、**Documents** (ドキュメント) タブをクリックします。デフォルトドキュメントを **handshake.asmx** に設定し、他のデフォルトドキュメントはすべて削除します。
- 4 証明書の MMC プラグインを使用して、**PS2.pfx** 証明書をシステムの **Personal** (個人) ストアにインストールします。

- 5 **RootCA.pem** をシステムの **Trusted Root Certificate Authorities** (信頼できるルート認証局) ストアにインストールします。
- 6 次の手順により、**SSL** およびクライアント証明書をウェブサイトに強制します。
 - a **DellProvisioningServer** 証明書をウェブサイトに割り当てます。
 - b **SSL** ポートを **4433** に設定します。
 - c 必要な **SSL** オプションを選択します。
 - d 必要なクライアント証明書オプションを選択します。
 - e 信頼リストに **iDRAC RootCA** のみの **Certificate Trust List** (証明書信頼リスト) を作成します。



メモ：証明書ファイル (**SITE_PFX_PASSWORD = "fW7kd2G"**) はインストール実行後、次の場所に保存されます。
[ConfigMgrPath]\AdminUI\XmlStorage\Extensions\bin\Deployment\Dell\PowerEdge\LC\IISsetup.

IIS 7.0 または IIS 7.5 用 Dell プロビジョニングウェブサービスの設定

IIS 7.0 または IIS 7.5 用 Dell プロビジョニングウェブサービスを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 Dell Server Deployment Pack がインストールされている ConfigMgr コンソールで、**Dell_Lifecycle_Controller_Integration_1.1.0.msi** を起動し、デフォルト値を選択します。**Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) という新しい仮想ウェブサイトが作成されます。
- 2 **Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) という新しいアプリケーションプールを作成し、それをウェブサイトに割り当てます。
- 3 **Provisioning Web Site** (プロビジョニングウェブサイト) で次の手順を実行します。
 - a システムが **64** ビットのオペレーティングシステムで実行している場合は、**Enable 32 Bit Applications** (32 ビットのアプリケーションを有効にする) を **True** (正) に設定します。
 - b **Managed Pipeline Mode** (管理下パイプラインモード) を **Integrated** (内蔵) に設定します。
 - c **Identity** (識別) を **Network Service** (ネットワークサービス) に設定します。
- 4 ウェブサイトで、デフォルトドキュメントを **handshake.asmx** に設定し、その他のデフォルトドキュメントをすべて削除します。
- 5 証明書 MMC プラグインを使用して、**PS2.pfx** 証明書をシステムの **Personal** (個人) ストアにインストールします。

- 6 **RootCA.pem** をシステムの **Trusted Root Certificate Authorities** (信頼できるルート認証局) ストアにインストールします。
- 7 **ProvisioningCTL.stl Certificate Trust List** (ProvisioningCTL.stl 証明書信頼リスト) ファイルを **Intermediate Certificate Authorities** (中間証明書認証局) にインポートします。
- 8 インポートした **Certificate Trust List** (証明書信頼リスト) を適用する SSL 証明書設定を作成します。コマンドプロンプトに、次のコマンドをペーストします。

```
netsh http add sslcert ipport=0.0.0.0:4433 appid={6cb73250-820b-11de-8a39-0800200c9a66} certstorename=MY certhash=fbcc14993919d2cdd64cfed68579112c91c05027 sslctlstorename=CA sslctlidentifier="ProvisioningCTL"
```
- 9 次の手順により、SSL およびクライアント証明書をウェブサイトに強制します。
 - a ポートを **4433** に設定して、**DellProvisioningServer** 証明書を使用するには、SSL 結合を追加します。証明書が別のプログラムに割り当てられるという警告が表示されます。
 - b **OK** をクリックします。
 - c ポート **4431** の HTTP 結合を除去します。
 - d 必要な SSL オプションを選択します。
 - e 必要なクライアント証明書オプションを選択します。
 - f **Apply** (適用) をクリックします。

Dell 自動検出ネットワーク設定仕様

自動検出のエラーメッセージ、説明、および対応処置については、**delltechcenter.com** の『Dell Auto-Discovery Network Setup Specification』(Dell 自動検出ネットワーク仕様) を参照してください。

アップグレードまたは修正の問題

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration 1.2 またはそれ以降のバージョンをインストール後に Dell Server Deployment Pack をアップグレード、または修正した場合は次の手順を実行します。

- 1 **CustomReboot.vbs** を **[ConfigMgrRoot]\AdminUI\XmlStorage\Extensions\Bin\Deployment\Dell\PowerEdge\LC** から

[ConfigMgrRoot]\OSD\Lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\CustomReboot にコピーします。コピー先フォルダ内のファイルは上書きされます。

- 2 **DellPowerEdgeDeployment.xml** を **[ConfigMgrRoot]\AdminUI\XmlStorage\Extensions\Bin\Deployment\Dell\PowerEdge\LC** から **[ConfigMgrRoot]\AdminUI\XmlStorage\Extensions\Bin\Deployment\Dell\PowerEdge** にコピーします。コピー先フォルダ内のファイルは上書きされます。

Lifecycle Controller ログのエクスポートおよび表示のトラブルシューティング

単一のシステムまたはコレクションの Lifecycle Controller ログを表示する場合、グリッド画面には、**-1** が **No.** 欄に、なしがカテゴリ、説明 および **ID** 欄に表示されることがあります。

次の原因と対応処置が考えられます。

- 1 Lifecycle Controller が他のタスクまたはプロセスを実行中であることから、そのシステムまたはコレクションの Lifecycle Controller ログを取得できない。
対応処置：しばらく待ってから、システムまたはコレクションのログの取得または更新を再実行し、ログを再度表示します。
- 2 Lifecycle Controller が特定の CIFS 共有にアクセスできない。
対応処置：CIFS 共有のパーミッションをチェックし、この共有が Lifecycle Controller のターゲットシステムからアクセス可能であることを確認します。
- 3 サイトサーバーが特定の CIFS 共有にアクセスできない。
対応処置：CIFS 共有のパーミッションをチェックし、この共有がサイトサーバーからアクセス可能であることを確認します。
- 4 特定の CIFS 共有が読み取り専用共有になっている。
対応処置：読み取りと書き込みの両方を有効にして、共有ロケーションの詳細を提供します。
- 5 エクスポートされた **.XML** ファイルの形式が不適切である。
対応処置：詳細については、**support.dell.com/manuals** にある『Dell Lifecycle Controller ユーザーズガイド』を参照してください。
- 6 ターゲットシステムを Lifecycle Controller バージョン 1.3 または 1.4 から Lifecycle Controller バージョン 1.5 にアップグレードする。

対応処置：Lifecycle Controller ログをエクスポートし、Unified Server Configurator を使って Lifecycle Controller ワイプを実行し、Unified Server Configurator を再インストールして Lifecycle Controller ログを再生成します。

問題と対応処置

- **問題**：共有ネットワークモードで設定された Integrated Dell Remote Access Controller 搭載のターゲットシステムにオペレーティングシステムを導入中、Windows PE 環境の開始がネットワークドライバで失敗した結果、タスクシーケンスに達する前にシステムが再起動する場合がある。

対応処置：これは、ネットワークによる IP アドレス割り当てが遅すぎたために発生します。この問題を回避するには、ネットワークスイッチでスパニングツリー および 高速リンク を有効化するようにしてください。

- **問題**：システムで Lifecycle Controller が使用されていると、そのシステムが検出されなくなる。

対応処置：システムがコレクションに表示されない場合は、ログファイルに Lifecycle Controller in Use (Lifecycle Controller 使用中) というメッセージが含まれているかどうかを確認します。このエラーメッセージがあれば、次の手順を実行します。

- a システムが電源投入時自己診断テスト (POST) 状態でないことを確認します。
システムは電源投入後、メディアを介してオペレーティングシステムが起動するまで POST 状態になります。
- b システムの電源を切り、10 分待ってからコレクションに表示されるかを確認します。

- **問題**：ソースおよび宛先フォルダ用のローカルフォルダの場所を指定しないと、**Create Lifecycle Controller Boot Media** (Lifecycle Controller 起動メディアの作成) オプションが失敗する場合がある。

対応処置：ソースコピー元とコピー先パスがローカルパスであることを確認してください。例：**C:\<フォルダ名>**

- **問題**：ターゲットシステムの中に、サポートされる Integrated Dell Remote Access Controller バージョンより古いバージョンが存在する場合、オペレーティングシステム導入ワークローの **Boot to vFlash** (vFlash から起動) オプションが失敗する場合がある。

対応処置：ラックとタワーサーバーでは、Integrated Dell Remote Access Controller バージョン 1.3 以降のファームウェアがインストールされていることを確認してください。ブレードサーバーでは、Integrated Dell Remote Access Controller バージョン 2.2 以降のファームウェアがインストールされていることを確認してください。

- 問題:** **Launch Config Utility** (Config の起動 ユーティリティ) を使用してオペレーティングシステムを導入中、タスクシーケンスのアドバタイズメントが画面に表示されない。

対応処置: 導入するコレクションそのものに対してアドバタイズするようにしてください。親コレクションに対するアドバタイズは子コレクションには適用されません。
- 問題:** ConfigMgr SP1 R2 から Windows Automated Installation Kit (Windows AIK) 1.1 を使って Microsoft Windows 2008 R2 を導入する際に、次のエラーメッセージが表示される。

Operation failed with 0X80070002.The system cannot find the file specified. (0X80070002 で操作に失敗しました。指定されたファイルが見つかりません。)

対応処置: この問題は、Windows AIK 1.X で作成された Windows PE 2.X ベースの起動イメージを使って Microsoft Windows 2008 R2 を導入する場合に発生します。Microsoft Windows 2008 R2 を導入するタスクシーケンスに、Windows AIK 2.X 以降で作成された Windows PE 3.0 以降ベースの起動イメージが使われていることを確認してください。詳細については、Microsoft TechNet サイト technet.microsoft.com を参照してください。
- 問題:** ターゲットシステムの BIOS のバージョンが古く、特定のメソッドがサポートされない場合、DLCTaskManager.log ファイルに次のエラーメッセージが表示される。

Installed BIOS version does not support this method.
(インストールされている BIOS のバージョンはこのメソッドをサポートしません。)

対応処置: BIOS を、サポートされている最新のバージョンにアップデートしてください。
- 問題:** ターゲットシステムの Lifecycle Controller が他のプロセスにロックされた場合、DLCTaskManager.log ファイルに次のエラーメッセージが表示される。

Lifecycle Controller is being used by another process. (Lifecycle Controller は、現在別のプロセスによって使用されています。)

対応処置: システムの Integrated Dell Remote Access Controller が POST 状態でないことを確認します。

- 問題：ターゲットシステムのサービスタグ名を正しく入力しない場合、検出およびハンドシェイクが失敗して、次のエラーメッセージが表示される。
 [Server Name] - Handshake - getCredentialsInternal():[Server Name]: NOT AUTHORIZED: No credentials returned ([サーバー名]-ハンドシェイク - getCredentialsInternal():[サーバー名]: 認証されていません: 資格情報が返されませんでした)

対応処置：サービスタグ名は、大文字と小文字が区別されます。

import.exe ユーティリティを使ってインポートされたサービスタグ名が Integrated Dell Remote Access Controller GUI 内のサービスタグ名に一致していることを確認してください。

- 問題：Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムの導入時に、**Apply Drivers from Lifecycle Controller** (Lifecycle Controller からドライバを適用) オプションを選択すると、ブルースクリーンが表示されたり、導入が失敗する。

対応処置：この問題を解決するには、次の手順を実行してください。

- タスクシーケンスを右クリックして、**Edit** (編集) をクリックします。**Task Sequence Editor** (タスクシーケンスエディタ) ウィンドウが開きます。
- Add** (追加) → **Drivers** (ドライバ) → **Apply Driver Package** (ドライバパッケージの適用) を選択します。
- マストレージドライバ オプションを選択します。
- SAS または PERC ドライバを選択します。
- SAS または PERC ドライバをのモデル選択します。
- タスクシーケンスを保存して、オペレーティングシステムを再導入します。

- 問題：検出とハンドシェイク中、**DPS.log** に空の サイトコード : が表示され、その後に暗号化例外が表示される。

対応処置：この問題は、ConfigMgr アクセス用に入力されたアカウントが WMI にクエリを実行してサイトコードを取得するパーミッションがないか、または Site Server やドメインコントローラへの認証が失敗したときに発生します。Dell Provisioning Server ユーザーパーミッションを確認して、**WBEMTest** 接続を行ってアカウントを確認してから、システムをリセットし、再検出します。

- 問題：検出とハンドシェイク中に、createDellCollecions () Either Connection Mgr param is NULL or Collection not yet created (createDellCollecions() 接続マネージャパラメータが NULL か、コレクションがまだ作成されていません) というメッセージが **DPS.log** に多数表示される。

対応処置：この問題は、ConfigMgr にアクセスするために入力されたアカウントにパーミッションがない場合に発生します。設定パーミッションの詳細については、**Dell 自動検出ネットワーク設定仕様**を参照してください。

- **問題**：ConfigMgr の既存のアカウントからアカウントをクローンした場合、そのアカウントは SMS_Admins グループに自動的に追加されない。
対応処置：そのアカウントがこのグループにあることを確認してください。Dell Provisioning Server ユーザーパーミッションを確認し、**WBEMTest** に接続してアカウントを確認します。システムをリセットし、再検出します。
- **問題**：**User Account Controller** (UAC) オプションをオンにした状態で Microsoft Windows 2008 32 ビット SP2 に ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration バージョン 1.3 をインストール中に、インストールが失敗する。
対応処置：UAC をオフにして ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration バージョン 1.3 を再インストールします。または、コマンドラインインタフェース (CLI) を使用して ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration をインストールすることもできます。この方法を実行する前に、インストーラを右クリックし、**Properties** (プロパティ) タブを選択、**Compatibility** (互換性) タブをクリックして **Run as Administrator** (管理者として実行) オプションを選択してください。
- **問題**：ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration をアンインストールして再インストールした後、**Advertise** (アドバタイズ) オプションが既存のタスクシーケンスに表示されない。
対応処置：タスクシーケンスを編集用に関して、**Apply** (適用) オプションを有効にしてから、**OK** をクリックします。**Advertise** (アドバタイズ) オプションが表示されます。
Apply (適用) オプションを再度有効にするには、次の手順を実行します。
 - a タスクシーケンスを右クリックして、**Edit** (編集) を選択します。
 - b **Restart in Windows PE** (Windows PE で再起動) を選択します。**Description** (説明) セクションで、どれか 1 文字入力してから削除し、変更が保存されないようにします。
 - c **OK** をクリックします。これで **Apply** (適用) オプションが有効になります。
- **問題**：**System Viewer** ユーティリティに最新の RAID 設定が表示されない。

対応処置：**System Viewer** ユーティリティを使用してシステムの RAID 設定を表示すると、その情報はキャッシュされます。同じシステムの RAID 設定をアップデートする場合、アップデートされた RAID 構成を表示するには、**System Viewer** ユーティリティを閉じてから再度開く必要があります。

- **問題**：モノリシックシステムでは CIFS 共有へのパスに含まれるホスト名を使用できるのに、モジュラーシステムではこのホスト名を使用できない。

対応処置：モジュラーシステムの場合、CIFS 共有の IP アドレスを指定する必要があります。

- **問題**：システムを最新のファームウェアにアップデートするときに、WAN 経由で Dell Update Packages (DUPS) をダウンロードする時間が 50 分以上経過すると、アップデートタスクが失敗する場合がある。

対応処置：この問題に遭遇した場合は、アップデートファイルが収められているレポジトリを、アップデートを行うシステムのローカルネットワーク上にコピーする必要があります。

- **問題**：ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration バージョン 1.0 または 1.1 でシステムを検出して、それをバージョン 1.2 または 1.3 にアップグレードした後にファームウェアのアップデートを行った場合、OS の導入中にホスト名を変更していれば、システムの再検出を行う必要がある。

対応処置：ターゲットシステムの Lifecycle Controller をバージョン 1.4 以降にアップグレードし、ターゲットシステム上の Integrated Dell Remote Access Controller をモノリシックシステムではバージョン 1.5 以降に、モジュラーシステムではバージョン 3.02 以降にアップグレードします。

- **問題**：システムまたはコレクションにバックアップイメージをインポートする際、無効なバックアップファイルパスフレーズを指定すると、Task Viewer に Backup File passphrase is invalid.Host system has shut down due to invalid passphrase.Specify a valid passphrase and rerun the task. (バックアップファイルパスフレーズが無効です。ホストシステムは無効なパスフレーズが原因でシャットダウンします。有効なパスフレーズを指定してタスクを戻してください。) というエラーが表示される。

対応処置：この問題を解決するには、ワークフローを再開してバックアップイメージをインポートし、タスクを Task Viewer に再送信します。詳細については、[システムプロファイルのインポート](#)を参照してください。

- **問題**：コレクションに対してバックアップまたは復元作業が実行中、そのコレクションの **Lifecycle Controller** ログを表示できない。これは、**Lifecycle Controller** が実行中のバックアップまたは復元タスクでビジー状態になっていることが原因です。
対応処置：Lifecycle Controller ログを表示するには、バックアップまたは復元タスクが完了してから、Lifecycle Controller ログ画面で **Refresh**（リフレッシュ）をクリックします。
- **問題**：Lifecycle Controller ログを連続的に追加するか、1 つまたは複数のコンポーネントが連続的にログを作成すると、そのコレクションの Lifecycle Controller ログが表示できないことがある。
対応処置：Lifecycle Controller ログを表示するには、しばらく待ってから、Lifecycle Controller ログ画面で **Refresh**（リフレッシュ）をクリックします。

関連文書およびリソース

ConfigMgr のインストール、特性、機能性などの詳細については、Microsoft TechNet のサイト technet.microsoft.com を参照してください。

このガイド以外にも、デルサポートサイト support.dell.com/manuals から次のガイドを入手できます。**Manuals**（マニュアル）ページで、**Software**（ソフトウェア）→**Systems Management**（システム管理）とクリックしてください。右側の製品リンクをクリックすると、その製品に関するドキュメントにアクセスできます。

- 『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell Server Deployment Pack ユーザーズガイド』
- 『Dell Life Cycle Controller ユーザーズガイド』
- 『Integrated Dell Remote Access Controller 6 (iDRAC6) ユーザーズガイド』

www.delltechcenter.com では、次のホワイトペーパーをご覧ください。Dell TechCenter Wiki Home ページで、**OpenManage Systems Management**→**LifeCycle Controller** とクリックします。

- 『Dell Lifecycle Controller Remote Services 概要』
- 『Lifecycle Controller 1.4 Web Services Interface ガイドライン』
- 『Dell 自動検出ネットワーク設定仕様』

テクニカルサポートを受けるには

ConfigMgr 用 Dell Lifecycle Controller Integration についてのサポートおよび情報については、support.dell.com を参照してください。

米国にお住まいの方は、800-WWW-DELL (800-999-3355) までお電話ください。



メモ：お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

テクニカルサポートについての情報は、dell.com/contactus にアクセスしてください。

また、dell.com/training で Dell Enterprise Training and Certification もご利用いただけます。

索引

D

- Dell Lifecycle Controller
Integration の使用, 25
- Dell サーバーのインポート, 67

I

- Integrated Dell Remote Access
Controller
コンソールの起動, 33

L

- Lifecycle Controller
Integration
追加タスク, 36
- Lifecycle Controller との通信の
検証, 59
- Lifecycle Controller の資格情報
の変更, 60
- Lifecycle Controller ログの
表示, 85
- Lifecycle Controller ログの
表示とエクスポート, 22
- Lifecycle Controller 起動
メディアの作成, 48

N

- NIC/CNA プロファイルでの
作業, 23

- NIC/CNA プロファイルの
コレクション内システム
との比較, 65

R

- RAID の表示と設定, 74

S

- System Viewer ユーティリティ,
31
- System Viewer ユーティリティの
使用, 71

T

- Task Viewer, 35

あ

- アレイ
削除, 43
追加, 43
編集, 43
- アレイ構成
操作, 40
- 一般的な使用方法
ブータブル ISO イメージの
作成, 30

か

関連文書およびリソース, 107

既存の機能と機能性, 11

機能と機能性, 26

コレクション内のシステムの
ファームインベントリの
比較およびアップデート, 57

コレクションのプラットフォーム
復元, 63

コントローラ

削除, 41

追加, 40

編集, 41

さ

サーバーのインポート
ユーティリティの使用, 67

サーバープロファイルの
インポート, 20

サーバープロファイルの
エクスポート, 19

サポートされるターゲット
システム, 12

使用事例のシナリオ, 15

自動検出とハンドシェイク, 26

新機能, 9

システムの **Integrated Dell
Remote Access Controller**
プロファイルの設定, 75

システムの **NIC** および **CNA** の
設定, 77

システムの **RAID** プロファイルの
作成、編集および保存, 16

システム変数のインポート, 69

設定ユーティリティ, 33

設定ユーティリティの使い方, 47

た

ターゲットシステムの設定, 26

対応 **OS**, 12

タスクシーケンスのメディアの
作成, 30

タスクシーケンスへのドライバの
適用, 27

テクニカルサポートを
受けるには, 107

ディスク

削除, 45

追加, 45

変更, 45

特徴と機能

自動検出とハンドシェイク, 26

トラブルシューティング, 97

は

ハードウェアインベントリの
表示, 59

ハードウェア構成プロファイルの
比較, 84

ハードウェア設定の表示と
編集, 72

ハードウェアの設定とオペレー
ティングシステムの導入, 49

はじめに, 9

ファームウェアインベントリの
比較とアップデート, 17, 83

変数条件

削除, 42
追加, 42
編集, 42
本書について, 9

ら

論理ドライブ
削除, 44
追加, 44
編集, 44

